

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年10月13日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3870600735
事業所名	グループホーム多賀の里
(ユニット名)	壱丁目
記入者(管理者)	
氏 名	上田哲久(目見田恵子)
自己評価作成日	29 年 8 月 31 日

【事業所理念】 利用者様が穏やかで生き生きと社会生活を営めるよう質の高いサービスを提供します。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①先輩と新人職員の利用者に対する情報格差がある。 用者の施設への入居から現在の状況を新人職員であっても一人ひとりの経過を理解しやすいよう新人職員指導表を作成する。(指導表以外にも個々の支援の仕方を作成している為、利用者の状態を早く理解する事ができるようになった) ②運営推進会を単独ではどうか。 中開催し日々の利用者の様子をみて頂く 又家族や地域の方と一緒に防災訓練を行う。(利用者全員の避難誘導の大変さや重要性を理解して頂くと同時に災害時協力をお願いする)	・利 ・日	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 利用者、職員共に大変穏やかに過ごしており、ゆったりとした時間が流れている。男性職員の数が多く、事業所全体に活気がある。事業所内は一切施錠されておらず、ふらりと外へ出た利用者に、そっと寄り添う職員の姿勢が印象的である。日々の記録は面会時に家族が閲覧するシステムになっており、提供している支援内容についての自信が窺えるとともに、家族からの意見やアイデアに柔軟に対応していこうとしている姿勢が見受けられた。
--	--	----------	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の生活の中で利用者様がどのように過ごしたいか本人様に聞いたり、表情、行動等から利用者様の思いを感じたりし職員間で共有している。	◎		◎	事業所で使用している様式に利用者の希望や思いを細かく記載している。併設のデイサービスも含めると、将棋が好きな利用者は数名いるが、利用者同士で対戦するとトラブルになることもあるため、最近は職員と対戦している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日頃よりコミュニケーションを多くとり普段の関わりの中から利用者様の表情や行動を見逃さず思いを汲み取る努力をしている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族様がケース会や面会に来られたときに利用者様の行動や思いについて情報共有しており。その情報について家族様の意見もお聞きしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメントシートを作成し、職員同士が情報を共有している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	利用者様の情報は職員全員で共有できる体制ができており、それにより一職員の偏った見方が起きないようにしている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	アセスメントシートを活用しながら家族様からも情報収集を行うよう努めている。			◎	利用者の若い頃のことや入居前の暮らしについて、聞き取ることができた事柄を丁寧に記載している。最近では、利用者が若いころに通っていたなじみの食堂に久しぶりに行き、とても喜ばれた。また、以前から利用している美容室へ、毎回家族と共に通っている利用者もいる。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	各利用者様の生活のベースを把握し、行動、言動に変化あれば申し送り行い生活記録や申し送りノートに記載することで情報共有し現状の把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	喜ばれたり、不安になったりした感情の変化は生活記録に細かく記入することで情報の共有を図っている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	前後の様子や家族関係、生活歴の内容などから、不安要因になりうるものをカンファレンスで話し合っている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の申し送りを正しく行うことで、利用者様の生活のリズムを把握している。変化ある場合は特記事項として記入することとしている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	職員や家族様から聞いた情報と本人様の言動、行動を照らし合わせ、カンファレンス行っている。			◎	カンファレンス記録は、細かく丁寧に記載されている。職員全員が作成したものを、最後にケアマネが確認して仕上げる形をとっている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人様の生活歴、性格、好み、日常動作を理解した上でカンファレンス行っている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケース会で検討した内容に基づき介護計画書を作成し、課題を明らかにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日頃より、利用者様の思いや希望等を会話の中より聞いておき、その内容をもとにカンファレンスを行っている。	/	/	/	利用者ごとに24時間シートを作成し、日々の支援、介護計画に反映させている。立てられた目標は、番号を振って介護記録に転記され、日々の支援の中で常に介護計画の内容を振り返ることができるように工夫している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ケース会に家族様も参加していただき、日々の利用者様の様子、体調、食事形態等、話し合いをしている。また利用者様本人の意見も取り入れるようにしている。	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ケース会や面会に家族様が来られた際に、入所以前の利用者様の生活歴や好みなどをお聞きし職員間で共有している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族様との面談によって要望等、取り入れながら行っている。地域の方のボランティアも施設支援になっている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケース会で利用者様の日々の生活状況を話し合い内容を検討している。また各利用者様の介護計画書が確認しやすいよう一覧でファイリングしている。	/	/	◎	職員は日々の支援の中で気が付いたアイデアや注意したほうが良いと感じたことなどを、「気づきノート」に記載している。そのノートを皆が回覧することで共有し、支援方法の改善や工夫につなげている。また利用者の様子や日々の支援については、「生活介護記録」に細かく記入され、この記録は家族の面会時に閲覧してもらうシステムになっている。職員にとっては、いろいろと記録するものが多く負担に感じる反面、きちんとした対応ができていうという安心感・自信につながっていることが伺えた。「気づきノート」にある利用者の情報について、「生活介護記録」にも簡単に記載があれば、閲覧している家族にも分かりやすく、より日頃の様子が伝えられる記録となると思われる。利用者の他者へ見せた優しさや、皆で楽しく過ごしている日常の様子が、より具体的に記入されていると、家族の安心感・満足感にもつながるため、今後の実施に期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケース会にて、介護計画について検討を行い、その内容を議事録として作成し、全職員で共有することで今後の支援に繋げれる体制をとっている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	一人一人の日々の暮らしの様子や支援した具体的内容を生活記録として記入している。課題について支援した場合は生活記録のチェック欄にチェックし分かりやすくしている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	職員間で気づきノートを作成し日々の生活の中で気づいたことを記入し今後の課題や工夫に繋がられるようにしている。	/	/	◎	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間終了前のケース会にて介護計画内容について話し合い、それをもとにケアマネが介護計画書を作成している。	/	/	◎	3か月に1回、また状態が変化した際にはその都度計画を見直している。家族へは面会時に説明しているが、状況によって郵送と電話で対応している。利用者毎の個別ファイルには、介護計画の期間も分かりやすく記載しており、次の見直し時期を常に確認できるようにしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	必ず月一回のケース会を行い利用者様全員の現状確認を行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の意見を聞き、家族様や医療機関と連携できる体制を作り、体調変化が見られた時は、必要に応じて、計画を見直している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的にケース会を開き、各利用者様の様子、課題等を話しあっている。緊急性がある場合にはその都度。	/	/	◎	毎月1回ケース会を開催し、利用者個々の健康状態や支援について等話し合っている。職員が交代で記録をとり、ケース会に参加できなかった職員にも回覧し、情報共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から職員同士多くのコミュニケーションをとりながら職場でのより良い雰囲気作りに努めており、その結果、率直な意見交換ができる環境になっている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	勤務者以外のユニット職員と管理者を参加対象とし17時以降の開催とすることで出来るだけ多くの職員に参加していただける状況となっている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議報告書を作成し参加できない職員にも会議内容を見ていただくことや口頭での説明で情報の共有をしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	朝、夕の口頭での申し送りと、申し送り事項をノートに記入することで職員間で情報の共有と伝達ができている。	/	/	◎	申し送りノートには、職員が丁寧に細かく記載しており、伝達もれのないよう、確認済の押印やサインをするようにしている。また、毎朝の申し送りには、夜勤の職員と日勤のリーダー職員が参加し、3ユニット合同で行っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝、夕の口頭での申し送りと、重要な申し送り事項はノートに記入することで職員間で情報の共有と伝達ができている。	◎	/	/	

愛媛県グループホーム多賀の里									
項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者様との会話を多く持つことで、本人様の希望をしっかり聞くことができおり、できうる限りのことは行うようにしている。				利用者の重度化に伴い、本当の思いをくみ取ることは難しく、発語ができない利用者については表情から想像している。手さぐりの状態となることから、利用者の真の思いについては日々慎重に観察している。経験の浅い職員には、積極的に研修会への参加を促し、勉強の機会を与えている。職員の様子を見ていると、研修参加後は、利用者への気配りや声掛け等において、とてもレベルアップしていると管理者は感じている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	衣服の選択やトイレの有無などさりげない声掛けにて確認、自己決定にて誘導、支援を行っている。			◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者様との会話の中で思いや希望を汲み取り、可能な限りの支援を行い、その他の職員も同じ支援ができるよう情報の共有をおこなっている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	朝の起床、食事、レク、入浴など利用者様の状態に合わせて、声掛けにてしっかり覚醒、意思表示にて提供している。レクも強制ではなく自然に輪の中に参加してもらえるよう工夫をしている。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	積極的に利用者様に話しかけ、興味があることを見つけ出すように努めている。			◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や行動を見て少しでも利用者様の意向に添えるよう努めている。気づいたことはノートに記入し情報共有するようにしている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	接遇を守り 人生の先輩としての接し方を心がけている。	◎	◎	◎	利用者のプライバシーについては常に配慮してはいるが、利用者が難聴の場合等、トイレ誘導の声掛けが大声になってしまい、職員同士で注意しあうようなこともある。歩行器を使用する利用者が安全に移動できるよう、トイレの扉を取り外した際には、代わりにカーテンを取り付ける等、安全性だけでなくプライバシーの保護についても常に配慮している。管理者は、「好きで入居した方はないのだから温かく接すること」を職員に指導している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	トイレ誘導時など、他の方にわからないよう配慮した声かけを心がけている。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	トイレへの声かけなどは、耳元や、さりげなく誘導するなどの配慮を常に行って、利用者の羞恥心などに配慮している。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ノックして入るのはもちろんの事、掃除などでも入る前に一声かけて確認をとるようにしている。			◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入職時に誓約書を読み理解した上で、個人情報やプライバシー保護について厳守している。他に毎年勉強会を開いて理解を深めている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	介助を行った後の、利用者からの「ありがとう」の労いの言葉をいただく事や、調理の手助けをしてもらった時の、こちら側からの「ありがとう」などのやり取りなどからも互いに互助の関係ができている。				利用者同士の相性にも配慮し、席順やテーブルの位置等にも工夫している。気の合う利用者同士と一緒に座れるようにしたり、他の利用者と少し離れて座ったりしてもらう等、利用者毎に臨機応変な対応をして、皆が快適に過ごすことができるように支援している。食事の際、隣席の食が進まない利用者には、メニューについて説明をして食べてみるよう声掛けをしたり、いつもよりたくさん食べられたと励ましてみたり、利用者同士で支えあっている様子が見られた。また、以前には、職員の対応が悪かった時には利用者が管理者に知らせてくれたこともあった。利用者同士の会話から同世代ならではのやり取りなど、利用者から学ぶことも多い。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士で協力して家事や塗り絵などを仕上げている様子などから、利用者同士の協力が上手くいっていると感じている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	どうしても、出来る事の範囲が様々で最初の内は対立が起こりやすくなるが、スタッフが適宜介入することで、徐々に関係性が円滑になっている。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	早い段階から良好な関係を築くことは難しいが、不安な気持ちを傾聴、受容することで、安心を与えられるように努めている。				

愛媛県グループホーム多賀の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	アセスメントの情報だけではなく、家族からの情報で常に情報を書き換えていくことで、理解するようにしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入所前地域の理解はあるが、入所後は外出の時などにたまに訪れることがあるのみで、理解は十分ではない。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	こちらから訪ねていくことはあまりないが、友人が施設へ訪ねてくることもあり、関係性が切れないようにしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会や家族の方からの情報などを利用者本人へ伝え、思いを切らさないような努力をしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	△	基本はプランに沿った内容の支援を中心にしているが、天気の良い日には散歩や外気浴への支援などを弾力的におこなっている。	○	◎	◎	利用者2名ずつ、希望の場所へ外出する計画を立てており、利用者毎の好みや思い出に合わせた外出先を選定している。最近では、ずっと行けていなかった馴染みの食堂に行けることができ喜んでもらった。日常的な散歩については、利用者のペースで自由に出かけている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の人かられんげを植えたので見に連れて行ってあげて下さい。など声はかけていただいているが外出を同行して頂いたことは無い。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	介護が高く方でも分け隔てなく外出支援を行っている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	意思表示の難しい方でも、家族の希望なども取り入れながら、外出支援を行っている。家族などと一緒に誘っている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会やケース会、日々の関わりの中から、中核症症状やBPSDの理解と対応を検討して対応を試みている。	/	/	/	法人内の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が定期的にレクリエーション指導や口腔リハビリ等に訪問しているため、利用者毎に個別の相談をすることができ、専門職の意見を反映させた支援をすることができている。皆で行う体操や個別のメニューなど、利用者毎に実施している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	機能訓練と型にはめた支援だけではなく、「ちょっと歩きましょう」と言って歩いたり、歌を皆で口ずさむことで発声を行い、嚥下機能の向上を事前な形で取り入れて、維持向上を目指している・	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	○	時間に追われることのないように業務の改善見直しを行い、利用者が自分の力を出せるまでなるべく見守るようにしている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	アセスメント情報の理解と入所後からの日々の生活から情報を入手するようにしている。	/	/	/	利用者の状況に合わせて、洗濯物干しや畳み、調理の下ごしらえ等手伝ってもらっている。夕食等の買い物に、利用者も一緒に出掛けることもある。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	出来ることの見極めをスタッフで検討し、家事の中での一部分などへの関わりなど、それぞれの状態に合わせた支援を考えている。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の方の訪問などで一緒に作品を仕上げるなどを行うことで関わりを持つとともに、一緒に活動をすることで楽しみと生活のハリを感じている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自ら選べる人には選んでいただき出来ない方へも季節に応じた衣服をパランス良く提供するように努力している。				できる限り、利用者が自分で洋服を選ぶことができるよう支援している。季節や気温に応じた洋服の選択が難しい利用者には、ちょうどよい衣類のみ引き出しに入れておく等工夫している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	本人がそれまでに使っていたものを極力使用してもらったり、入所後も家族から持ってきてもらったりと努力をしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に生活することで、本人の声にならない声を一生懸命スタッフ間で検討し、最善の選択を出来る様に努力している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	行事の時には普段の服装よりも、華美なものを着ていただくように配慮している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、ブライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	歯磨きや洗面などで汚れた時などには、さりげなく更衣を促している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	入所前に行っていた理美容院などはなるべく継続するようにしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	元気な頃の時の写真などや家族の意向なども聞きながら、本人の好みそうな髪形や服装を意識している。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者様と共働しながら食事の準備献立、配膳などを行っている。				野菜と肉、卵や調味料など、予め事業所単位で購入している。その上で、ユニット毎に、10日間分ずつ職員がメニューを考え、足りない食材の買い物もユニット毎にしている。買い物へは利用者も一緒に出掛けることもある。メニューを決める際には、利用者にも希望を聞きながら、季節や好みにも配慮して決めている。利用者に合わせて刻み食やミキサー食などの形態も変えて調理しており、食が進まない利用者には、個別に雑炊を作る、アイスクリームを用意する等の対応も行っている。茶碗や箸、湯呑については利用者個人の物を使用している。利用者は皆、穏やかな雰囲気の中、ゆったりと食事ができており、食事介助が必要な場合においても、利用者のペースに合わせゆっくりと無理強いせずに介助されている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	利用者様と買い物に行き、食材と一緒に選んだり、洗い物などの後片付けを行ってもらったりしている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食材の皮むき、簡単な調理、後片付けを手伝っていただくことで利用者様の自信や達成感に繋げている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	利用者様の好きな食べ物や苦手な食べ物を伺いメモし、皆で把握するよう努めている。アレルギーなどは入所時詳しく家族様から情報を得ている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立作りは各職員が考え利用者様の好みや季節感を感じさせる旬の食材を取り入れたものを提供している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	利用者一人一人にもとづいた食事形態とともに美味しそうに見える盛り付けに気を付け彩りも気にしながら食材を選ぶようにしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	利用者様専用の茶碗、湯飲み、箸を使用していただいている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	同じテーブルで利用者様と一緒に食事をしさりげなく見守りが行えている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理中の職員も交えてコミュニケーションをとったり簡単な調理を利用者様に手伝ってもらい雰囲気作りを行っている。	○		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者様一人一人の食量や水分量を細目に記録し、きちんと摂取できるよう努めている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取量が少ない利用者様には飲みやすい水分やゼリーなどを提供し摂取していただいている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	献立は各職員がそれぞれに考え、季節の物や旬の物を献立に入れたり偏りのないよう配慮している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理用具は食器乾燥機で高温除菌を行い食材等の衛生管理も日々気を付けて行っている。次亜塩素消毒液や塩素系殺菌消毒など徹底している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	職員は口腔ケアの重要性を理解し毎食後の口腔ケアは個々の能力に合わせ声掛け見守り等、行っている。				法人内の言語聴覚士による指導を受けたり、医療機関が開催する口腔ケアの研修会に参加したりするなどして、職員が行う日々の口腔ケアに生かしている。現在は、口腔ケアに抵抗の強い利用者について日々試行錯誤しているところである。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	職員一人一人が各利用者様の口腔内、健康状況をアセスメントシートをもとに把握している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	定期的に言語聴覚士を招き指導していただいている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	利用者様に声掛け見守りを行い、義歯の手入れをしていただき、定期的な洗浄等にも配慮している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	各利用者様の能力に合わせた声掛けや支援を行い口腔内の清潔を保てるよう日常的ケアを行っている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	歯茎の腫れなど起こった時には、看護師に報告後歯科医に受診し対応している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	定期的なトイレ誘導に限らず、個々の排泄パターンを把握したり、車椅子の方でも座位が維持できればトイレでの排泄を促すなど、オムツだけに頼らないよう意識して支援している。				トイレは職員が日々丁寧に清掃しており、大変衛生的である。利用者が使用しているものは、布パンツやパッド、紙パンツ等様々であるが、職員の声掛け誘導により、日中はほとんどの利用者がトイレを利用している。夜間頻尿の利用者については、夜間のみ居室にポータブルトイレを置いて使用しているが、日中はポータブルトイレを片付け、目立たないように工夫されている。便秘傾向の利用者には、水分や根菜類、ヨーグルト摂取、またはマッサージなどにより自然な排便を促しており、できるだけ薬を頼らないよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘が及ぼす身体的、精神的ダメージについての理解をスタッフ間で共有している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	日々の関わりの中から、個々の排泄パターンを把握したりしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	車椅子の方でも座位が維持できれば、トイレでの排泄を促すなどを検討している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	日々の気づきを積み重ねていき、ケース会やその場その場での検討の中から、改善への道を探っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄表を毎日付けて、間隔や量等について意識して、声掛けを行っている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	最初はオムツの方でも、徐々に紙パンツや布パンツに変えていけるように、日々検討を行っている。またその過程を本人や家族へも報告している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	昼間は布パンツの方でも、本人や家族の希望を聞きながら、夜間や下剤を服用しているときなどには紙パンツを使用するなどの状況に応じた柔軟な対応をとっている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	お茶などの拒否する方などにはゼリーを提供したり、お汁を提供するなどの様々な対応をとっている。体操や歩行など体を動かしていただけるよう、声かけも行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	○	お昼から毎日お風呂を沸かしている。体調面にも注意しつつ一人ひとりに声をかけ、良いタイミングで入浴できるよう心掛けている。	◎		◎	利用者は一人ずつ入浴しているため、順番が偏らないよう毎回くじ引きをしている。トラブルもなく毎回ゲーム感覚で楽しく順番を決めることができている。職員は男性職員も多く、利用者の希望に合わせて同性介助も対応している。一つのユニットにはリフトが設置されているため、全ユニットの利用者で必要な状況があれば共用している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	ゆず湯などで季節感を出したり、個々の希望に合わせて湯温で提供するなどの工夫をしている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	手の届くところなどは自分で洗っていただくなど、残存能力に着目した支援を行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒否する理由をスタッフで検討し、順番を変えたり、声掛けを工夫するなどの努力をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には必ず検温を行い、体調がが気になる方は、バイタルチェックし入浴中止している、入浴後も状態観察を行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	生活記録への記載を行い入眠から起床までの状況を把握していくことを継続することで睡眠パターンの把握に努めている。				いつも寝つきの悪い方や日によって波のある方など様々な利用者があり、眠くなるまで職員は根気よく付き添っている。夜間帯にずっと廊下を歩いたり、車いすで移動したりする利用者にも、無理強いすることなく、利用者のペースに合わせた支援をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜間不眠の方には、健康状態の確認や日中の活動量等を調べて、その原因を探り、適宜対応を試みている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	入所前に服用した場合でも、家族や医師、スタッフ間での検討を行い、できる限り飲まないでいられるように検討を行っている。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	バイタルチェックだけに頼らず、本人の顔色や言動から判断し、休みをとることができるように支援している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者からの希望があれば家族へ電話をしたり、手紙を書いたりできるように支援している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	残存能力を見極めて適宜支援を行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があればすぐに電話できるようにユニット内に電話を置いてある。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙に対しては、きちんと読んでいただくよう支援している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	入所時や都度、家族への説明を行っている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	現在は個々にお金を所持している人はいないが、意味や大切さの理解は職員間で共有している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	食材などの買い出し時に好きなものを選んでもらったりなどの支援を行っている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	食材の買い出しにスタッフと一緒に参加するなど、理解を求めている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	現在は個々に管理している人はいないが、適宜家族と相談をしていくようにしている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時や、その後の話し合いなどで本人や家族への意向を確認している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	○	現在は個々に管理している方はいないが、以前は自分でお金を持っている方は、出納帳をつけ面会時など報告確認をしてもらうようにしていた。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	近所の神社への散歩や地域の方との交流から、利用者の豊かな暮らしを支援している。	◎		◎	家族から、事情があり特定の身内の方に面会させたくない并希望されたことがあり、他機関とも連携し対応したこともある。それ以来、面会者カードを記入してもらうなど、気を付けるようにしている。また、事業所としては看取りはしていないものの、家族の強い希望で看取りに近い状態で支援している利用者がある。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	○	玄関前にベンチがあり、中には囲炉裏があるなど共有空間の中でもリラックスできるような雰囲気 作りと利用者と近隣の方が関わりを持てるように工夫をしている。	◎	◎	◎	管理者は、誰にでも気軽に入ってもらえるよう、入りやすい雰囲気を大切に 玄関周りの環境を整えている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	○	壁などに季節季節の装飾や活動の様子を掲示したりするなどして雰囲気作りを行っている。	◎	○	◎	事業所内は経年しているが大変清潔で整頓されている。1日2回清掃し、 消毒にも気を使っている。廊下を移動する際に眺められるよう、季節の飾り や行事の際の写真などを掲示している。また、和室の床の間にはその時期 に合わせた置物やタペストリーを飾り、季節や行事を感じられるよう工夫さ れている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を行っている。日差しがまぶしい時などには、カーテンを引くなど適宜対応をとっている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫 している。	○	エアコンに頼らず、涼しい風の吹く日などには窓を開け、花の香りなど、季節感を感じていただけ るよう支援している。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	○	リビング内にソファを置いており、自由に座ってもらってくつろげるように支援している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	○	カーテンをつけるなどの対応をとり、共有空間から見えないようにしている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	○	本人様の生活(昔)を含め好みの物、使用していた物を把握し施設での生活が過ごしやすいよう支 援している。	◎		◎	事業所ではベッドのみ用意しており、自宅で使用していた愛用の椅子や、 配偶者の仏壇を居室内に置いている利用者もある。家族の写真やテレビな ど、自由に利用者の私物を持ち込むことで、居心地のよい空間を作ってい る。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	○	導線には物を置かないようにし歩行の妨げにならないよう配慮している。また手すりを設置してい ることで安全な歩行をしていただいている。			◎	浴室やトイレには分かりやすいよう表示をしており、利用者が迷うことのな いよう工夫している。利用者にとって危険なものは手の届かない場所など へ収納するなど配慮している。。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	○	トイレやお風呂の場所が分かるよう表示している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌、新聞はあるが裁縫道具など怪我のリスクがあるものは利用者の目の届かない所に置いて いる。将棋が趣味の方がいるので将棋セットをリビングに置いてありいつでも手に取れるようにして いる。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟) の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等)	○	利用者様の行動をむやみに制限するのが虐待にあたることを理解し、利用者様の精神ダメージに なることも理解している。	◎	◎	◎	家族の中には出勤前に面会に来られる方もあるため、玄関の施錠は21時 から6時の夜間帯のみとしている。各ユニットの出入口等、その他のドアに は一切施錠はしておらず、利用者も自由に出入りしている。落ち着かないと きなど、ふらりと外へ出る利用者もあるが、緊急連絡用に携帯電話を持った 職員がすぐに付き添っている。利用者のペースでしばらく散歩をして戻っ てくことも多い。その際、自宅へ招き入れてお茶をごちそうしてくれる地域 の方もある。職員も、鍵をかけない対応が普通だと認識しており、外へ出た利 用者に付き添う支援についても当然の流れと感じている。出入り口の扉に は鈴が付けられており、出入りする際には音で知らせることができるよう になっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っ ている。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	現状、居室の施錠をしていない、何か起こった時すぐ対応出来るよう鍵がない事は理解してもらっ ている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく てもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等)。	○	現状では施錠はしていないが職員同士連携をとり自立歩行の方の所在確認、歩行が多い時間の 把握に努めている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や 病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者様のフェイスシートに記された既往歴に目を通している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	一日に三回の検温、二回の血圧測定(場合によっては三回)を行い職員の気づきをもとにバイタルの急激な変化がないか確認している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	急な体調不良については看護師にすぐに報告し受診を判断してもらう。週に一回の往診時に主治医に気になる事があれば報告し見てもらう。				
31	かかりつけ医等の 受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	かかりつけの病院を把握し病院に応じて受診できるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人様、家族様の希望を聞き場合によってはスタッフだけでなく家族様も付き添ってもらっている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	入所前に説明をしている。また受診前受診後電話で連絡し受診の経緯、受診結果を伝えている。				
32	入退院時の医療機関との 連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時にサマリーを渡すようにしている。捕捉については口頭で伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	往診時異状があれば主治医に相談している。定期的な面会と主治医との連絡、相談によりスムーズな退院ができるよう努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	週一回の往診だけでなく体調に異変のある利用者様については主治医との相談、連絡を密にとっている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	利用者様に異常があれば看護師へ報告し指示仰ぐ、看護師の判断が難しいときはかかりつけ医へ連絡とるようにしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師が勤務時間外の時は電話相談している。協力医療機関とも24時間相談できる体制がある				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	バイタル等、異状があれば看護師にすぐ伝える。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	処方箋を見て薬の詳細、使用目的を理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	時間帯に応じた勤務スタッフが主となり服薬支援を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後、異状ないかスタッフ同士で確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	バイタルの推移と照らし合わせ変化あれば看護師へ報告している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	本人様、家族様の希望を聞き、なるべく希望通りの支援ができるようにしている。				重度化については家族の希望も確認しながら、できる範囲で対応している。食事が難しい状況になると、退居して入院となることが多く、現状として事業所での看取りは実施していない。しかし、現在家族の強い希望で、事業所で終末期を迎えようとしている利用者がおり、日中も寝ていることが多いが、できるだけ共有スペースの和室に寝てもらい、皆の気配を感じられる環境で過ごせるよう配慮している。緊急時マニュアルのほか、利用者毎の個別の緊急時対応マニュアルが作成されているため、職員の不安軽減につながっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	職員、病院関係者、主治医で話し合い、支援の方針を定めている。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	事前に家族様や主治医と緊急対応の話し合いをして書面にしている、夜間などの連絡方法もマニュアルとして作成し対応が出来るようしている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	長期の入院、医療ケアに限度があることを入所時に伝えている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族様との話し合いの場を設け、重度化支援の流れ、主治医の意見等交えながら準備を行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	家族様の気持ちに寄り添い支援を行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的に勉強会を行い学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	日頃から訓練を行ったり、資料をいつも目に止まる所に貼るなどしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	いろいろな機関からの情報を入手し対応している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症の流行に対応し面会など控えている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	作業後には必ず、手洗い消毒を行い来訪者等にも入口に消毒液、マスクを置くようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	普段から家族様とは連絡を密にしている。				家族会があり、お花見や避難訓練の時などに合わせて集まりを持ち、家族同士での会話もできている。事業所から家族へは、書面での報告「日常生活報告書」に加え、随時電話での報告を行っている。管理者は、小さな変化であっても、丁寧にこまめに報告することを心掛けている。家族へのアンケート結果からも満足度の高さが伺える。また、家族の要望も取り入れ、外出行事の際に家族とは目的地での現地集合とし、移動の際の家族の負担軽減を図る工夫をしている。ユニットの廊下には、常に職員全員の写真と氏名が掲示されており、職員の交代などがあった場合に、来訪者にも周知ができる体制になっている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	利用者の自室は自分達の自宅という考えを入所時伝え、自由に過ごしてもらっている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	○	お花見や夏祭りなど家族が参加できる行事を行っている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	日常生活報告書や写真などのユニットだよりを毎月送付している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時やケース会などで家族の意見を聞き報告を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	面会に来られた時など話を聞くよう心掛ける。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	施設での生活や日々の状況などの連絡事項を定期的に送付し報告している。	○		◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	○	様々な行事に参加していただけるよう機会を作っている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	ケース会などで家族の方に説明し対応を考えている。				
38	契約に関する説明と納得	j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時やケース会で話すようにしている。			◎	
		a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	十分な説明を行い、不安疑問点があればいつでも応じ納得を図っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	本人、家族に十分な話し合いを行い状態に応じた支援ができる他施設へのスムーズな移設、退居を支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	○	都度、文書で示し家族にも説明している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいや ネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する 市町の日常生活圏域、 自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会などを通して日々のご利用者様の様子を写真や新聞などで見てもらっている。		◎		以前は地域の田植祭にも参加していたが、利用者の重度化もあり、最近はお祭りを見に行くような、見学する行事への参加のみとなっている。地域の方は事業所の運営に大変協力的で、レクリエーションへの協力や、利用者が散歩に出た際に声を掛けてくれたり、また自宅へ招き入れてお茶をごちそうしてくれたりすることもある。日頃より庭先に咲いた花を届けてくれたり、イベント時には駐車場として敷地を開放してくれたりする等、地域に助けられて事業所が運営できていると管理者は感じている。災害時の避難についても地域の方からアイデアが出されるなど、利用者を地域住民の一人としてとらえ、地域全体で助け合っていこうという雰囲気が感じられる。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	地域とのつながりが深く、施設に対し協力や提案をして頂き、仕事やボランティア活動等多くの場合で交流している。		○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	行事などで地域の方と関わるようにし支援してくれる人が増えている。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	作品作りやボランティアまた夏祭りの盆踊りの練習など地域の方から声がかかりよく来ていただいている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	地域資源を活用し、美容室に来ていただいたり、散歩に神社に行ったりしている。またお礼に神社の掃除などさせて頂いている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	夏祭りや麦わら細工など行い地域の方が参加できるよう行事を行っている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	ご利用者様とスタッフで気分転換に外出を行ったりしている。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	地域との繋がりが深く施設に対し協力や提案をして頂き、仕事やボランティア活動等多くの場合で交流している。また夏祭り等のイベントチラシを公民館などに貼っていただき地域からの協力も得ている。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	会議に利用者様、家族様、地域の方と民生委員も参加してくださっている。	◎		◎	毎回地域の方や家族等にも参加してもらい開催している。今回の外部評価事業に合わせ、前回の評価後の取り組み内容についても改めて報告を行った。希望する職員は参加できるようになっており、日々の支援についてや行事の報告などを行っている。参加者よりいろいろとアイデアが出されることも多い。会議録は掲示して、当日参加していない職員にも内容を伝達し、家族へは定期的な書面での報告時に運営推進会議の内容についても入れるようにしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	外部評価についてなど報告を行っている。			◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	利用者様、家族様、地域の意見など参考にしどのようなことに取り入れたか報告している。		◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	開催には多くの方が参加できるよう夕方開催するなど工夫している。災害を想定した炊出し訓練には地域の方に参加していただき、時間も日中とし、日中の利用者様の様子なども見ていただいた。		○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録は玄関に置き誰でも閲覧できるようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	全体としての理念又ユニットとしての目標理念に基づき日々職員同士で話し合い出来ていないところは注意しあっている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	日頃より関わりを持つことで理念について伝えられている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	教育部門があり内部、外部研修の周知参加を行い個々のスキルアップにつなげている。				管理者は最低でも年に2回は職員と個別面談を行っており、予め職員が作成している「目標達成シート」を基に仕事のやりがいや目標達成度合いについて話し合っている。代表者は職員間の親睦を図るため、法人内でのレクリエーション大会や納涼会、忘年会などが毎年開催されている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	OJT担当者が決まる事により行き届いた教育学習ができています。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	会などで施設の事、職員の声など報告して理解してもらっている。職場環境は担当部門があるもので何かあれば対応可能な状態になっている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	外部研修や相互研修に参加することで感心したことや学んだことを他のスタッフに報告し話し合い、サービス向上に努めている。また他施設の良いところを参考にし取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	定期的に面談を行い色々と思いを聞く事や、サークル活動また親睦会などがあり、ストレス軽減に取り組んでいる。	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会や外部の研修にて学んでいる、またスタッフ間で話し合いができています。				法人内での研修や、事業所に併設されている小規模多機能居宅介護事業所と合同での研修会もあり、虐待防止については職員も学びを深めている。職員は、入職後すぐに虐待防止研修を受けたことで、その大切さを痛感した様子である。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送り時や勉強会や外部研修で学んでいる。スタッフ同士が目を配りながら見過ごさないよう防止に努めている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	勉強会や外部研修にて学んでいる。またスタッフ間でも確認し合っている。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	スタッフ個々の状況を把握し面談を行うことで、よい支援ができています。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会や外部研修にて学んでいる。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会や外部研修にて学んでいる。職員一人一人が利用者様の尊厳、安全を考え拘束しないケアをスタッフ同士で話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入所時に十分な説明を行い疑問点があればいつでも応じ納得を図っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	勉強会や外部研修にて学んでいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	必要に応じて説明を行っている。不明な点、疑問があればいつでも対応している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	研修に参加し、制度をスタッフ同士で話し合い理解し活用できるようにしている。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルに準じて迅速な対応ができるよう周知されている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	少しでも実践力が身に付くよう定期的に勉強会や研修に参加できるような機会がある。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット以外に気付きノートを職員間で共有して再発防止について情報交換している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ユニット会で情報交換・共有する機会があり、ユニット会以外に状態変化に関してリスク検討している。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルについて職員間で周知できるよう資料などを通して苦情について適宜検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情相談受付体制を整備し、適宜対応している。また苦情」があればその都度原因や対策を検討している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	対応策を検討して苦情防止に努め、少しでも良好な関係が保てるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	相談窓口や苦情対応窓口を設けたり意見箱を設置し早期に対応出来る体制をとっている。また運営推進会議が開催され、利用者様も参加できる機会がある。日々日常でも意見や要望について個別対応している。			○	利用者や家族とは、何かあればその都度伝えてもらえるよう、日頃より関係性づくりには配慮している。家族の外出行事への同行は負担も大きいため、家族の要望を取り入れ、その時の目的地で現地集合とし、少しでも多くの家族に気軽に参加してもらえるよう工夫している。職員も日頃の気付きやアイデアを「気付きノート」に記入したり、面接の機会を通して、思いを管理者や法人へ伝えることができています。また、職員アンケートが実施され、直接は言いにくい事柄があっても、匿名で記入できるなど配慮されている。管理者は、職員が思っていることを言えていないのではないかと常に気にかけており、日頃より様子を見て声かけをするなど配慮している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議以外に、家族会や面会時に苦情などあれば聞くようにしている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	面会時など意見や希望される事が無いが常に声掛けをし家族の思いを聞くようにしている。公的な窓口について、ホーム長が適宜情報提供している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	ユニット会への参加や適宜面接して、管理者と意見交換、検討している。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	定期的に個別に面接して、提案や相談してより良い運営に向けて検討している。			◎	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	管理者、全職員間で自己評価についてサービス評価の検討、理解に努めている。				自己評価についてはユニット毎に作成したため、ユニットによって自己評価も様々であるが、利用者本位のケアになっており、運営推進会議で取組み状況を家族等に報告し、出された意見等は運営に活かしている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	自己評価後、課題などに関して職員間で共有できる資料がある。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標に向けて、計画書を作成して可能な限り取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議を通して参加メンバーと利用者家族への報告を行っている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議等で、目標達成について成果の発表、確認をしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害についてのマニュアルを作成しており、対応できるよう避難訓練を定期的を実施している。				大規模な訓練としては年に2回、併設の小規模多機能居宅介護事業所と合同で行い、その他に、毎月、事業所単位で訓練や研修をしている。防火管理者を中心に地震に備え、防災頭巾の被り方や通報の仕方、消火器の使い方などの確認などに取り組んでいる。運営推進会議で地域住民から出された意見の反映として、地域住民が避難誘導の応援に事業所へ来た際、利用者毎の対応方法が分かりやすいよう、各居室に名前と共に手引歩行可や車椅子対応のどちらかのイラストを貼るなど工夫している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	定期的に避難訓練で夜間を想定した訓練を計画、実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備や避難経路の指示、非常食等の点検を行い把握している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署の方を招き指導を受けたり、地域住民との合同訓練をする機会がある。			◎	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域のネットワークづくりに適宜参加して災害対策に取り組んでいる。	○	◎		
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営推進会議などで、地域の方や家族に向けて日々のケアについて情報提供に取り組んでいる。				運営推進会議で参加者より出されたアイデアをきっかけに、今後、認知症カフェを計画している。地域の方と雑談をしたり、ちょっとした相談事を受けたりするような、気軽に立ち寄れるような場所にしたいと考えている。地域の方が得意の麦わら細工を利用者に教えに来てくれたり、地元の小学生との交流や中学生の福祉体験の受け入れの実施、毎年開催している夏祭りには、高校生のボランティアも大勢参加するなど、地域との連携も取れている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があれば出来る範囲の相談また助言をしている。		△	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	夏祭り等、開催して地域の方が集える機会を提供している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	ボランティアや学生、実習生の受け入れを適宜実施している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	イベント、ボランティアや勉強会を通して地域の色々なことに参加している。			◎	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年10月13日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	
事業所名	グループホーム多賀の里
(ユニット名)	式丁目
記入者(管理者)	
氏 名	武田良太 (目見田恵子)
自己評価作成日	29 年 8 月 31 日

【事業所理念】 利用者様が穏やかで生き生きと社会生活を営めるよう質の高いサービスを提供します。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①先輩と新人職員の利用者に対する情報格差がある。 用者の施設への入居から現在の状況を新人職員であっても一人ひとりの経過を理解しやすいよう新人職員指導表を作成する。(指導表以外にも個々の支援の仕方を作成している為、利用者の状態を早く理解する事ができるようになった) ②運営推進会を単独ではどうか。 中開催し日々の利用者の様子をみて頂く 又家族や地域の方と一緒に防災訓練を行う。(利用者全員の避難誘導の大変さや重要性を理解して頂くと同時に災害時協力をお願いする)	・利 ・日	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 利用者、職員共に大変穏やかに過ごしており、ゆったりとした時間が流れている。男性職員の数が多く、事業所全体に活気がある。事業所内は一切施錠されておらず、ふらりと外へ出た利用者に、そっと寄り添う職員の姿勢が印象的である。日々の記録は面会時に家族が閲覧するシステムになっており、提供している支援内容についての自信が窺えるとともに、家族からの意見やアイデアに柔軟に対応していこうとしている姿勢が見受けられた。
--	--	----------	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の関わりで表情や会話の中から把握できるよう努めている。	◎		◎	事業所で使用している様式に利用者の希望や思いを細かく記載している。併設のデイサービスも含めると、将棋が好きな利用者は数名いるが、利用者同士で対戦するとトラブルになることもあるため、最近は職員と対戦している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族様に生活歴を聴き趣味や好きだった物等の情報を踏まえ現在の生活状況からどのように生活を送るのが良いか検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族様が面会時やケース会に来られた利用者様の様子を話し情報交換を行っている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメントシートを作成し情報を共有している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	利用者様の情報は職員全員で共有し気になる等は話し合い支援している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	アセスメントシートを活用したり面会時やケース会等で情報収集を行っている。			◎	利用者の若い頃のことや入居前の暮らしについて、聞き取ることができた事柄を丁寧に記載している。最近では、利用者が若いころに通っていたなじみの食堂に久しぶりに行き、とても喜ばれた。また、以前から利用している美容室へ、毎回家族と共に通っている利用者もいる。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	利用者様の言動や行動に変化があれば申し送りをを行い生活記録や申し送りノートに記入することで情報を共有することで把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の関わりの中で気分が落ちついたり、不安になったり変化があれば生活記録に記入したり申し送りをしている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	不安定になる前の様子や生活歴の内容からケース会等でし不安要素はなにか話し合い把握に努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の申し送りや24時間シートを活用し変化や違いを把握できるように努めている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	職員や家族様から聞いた情報、御本人の言動や行動、訴えをケース会で話し合い検討している。			◎	カンファレンス記録は、細かく丁寧に記載されている。職員全員が作成したものを、最後にケアマネが確認して仕上げる形をとっている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	御本人の生活歴や性格、好みを把握したうえでケース会を行っている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケース会で検討した内容に基づきやモニタリングや介護計画を作成し課題を明らかにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日々の会話や関わりの中で希望や要望があればそのことについてケース会等で話し合いをしている。	/	/	/	利用者ごとに24時間シートを作成し、日々の支援、介護計画に反映させている。立てられた目標は、番号を振って介護記録に転記され、日々の支援の中で常に介護計画の内容を振り返ることができるように工夫している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ケース会に家族様も参加できる方は参加して頂き参加できない方は面会時や電話等で日々の様子を伝え要望を聴き作成している。	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族様面会やケース会に来られた際に生活歴や好きな食べ物等聞き職員間で情報を共有している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族様には病院受診を協力して頂いたり、地域の方には 歌謡ショーを開催して頂いている。介護計画書に反映している。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	月に1回ケース会を行い介護計画書の内容の共有している。すぐわかるように各利用者様の介護計画書をファイリングしている。	/	/	◎	職員は日々の支援の中で気が付いたアイデアや注意したほうが良いと感じたことなどを、「気づきノート」に記載している。そのノートを皆が回覧することで共有し、支援方法の改善や工夫につなげている。また利用者の様子や日々の支援については、「生活介護記録」に細かく記入され、この記録は家族の面会時に閲覧してもらうシステムになっている。職員にとっては、いろいろと記録するものが多く負担に感じる反面、きちんとした対応ができていうという安心感・自信につながっていることが伺えた。「気づきノート」にある利用者の情報について、「生活介護記録」にも簡単に記載があれば、閲覧している家族にも分かりやすく、より日頃の様子が伝えられる記録となると思われる。利用者の他者へ見せた優しさや、皆で楽しく過ごしている日常の様子が、より具体的に記入されていると、家族の安心感・満足感にもつながるため、今後の実施に期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の様子やケアの実践結果等を生活記録に記入し、ケース会等で話し合いその内容を議事録やモニタリングを記入し職員間で情報を共有し日々の支援に繋げれるよう努めている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々記録として言葉や様子を生活記録に記入している。身体状況は生活記録と申し送りノート、気づきノートに記入し状態の変化に留意している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	気づいた事やアイデア等はその場スタッフ同士で話し合い申し送りに記入。ケース会で話し合いをするようにしている。	/	/	◎	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間終了前にケース会で介護計画書の内容について検討し話の内容を踏まえ計画作成担当者が作成している。	/	/	◎	3か月に1回、また状態が変化した際にはその都度計画を見直している。家族へは面会時に説明しているが、状況によって郵送と電話で対応している。利用者毎の個別ファイルには、介護計画の期間も分かりやすく記載しており、次の見直し時期を常に確認できるようにしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回は必ずケース会を行い利用者様の現状を確認している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	退院後や身体に変化がある時は、看護師や医師、家族様と話しをし計画書を見直している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回はケースを開き利用者様の様子、課題等を話し合っている。緊急案件がある時は、その場にいる職員で話し合いをしたり、参加できずで職員でケース会をている。	/	/	◎	毎月1回ケース会を開催し、利用者個々の健康状態や支援について等話し合っている。職員が交代で記録をとり、ケース会に参加できなかった職員にも回覧し、情報共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日ごろから職員同士コミュニケーションをとりながら良い雰囲気に努め意見交換ができやすい職場環境作りに努めている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	勤務以外の職員と管理者が参加しているが開催が17時からの為、家庭の事情で参加できない職員もいる。参加できない職員の意見等を聞きその内容をケース会で話している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	変更があれば申し送りノートに記入したり、議事録を作成し情報を共有をしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	朝・夕申し送りを行い何か変化があれば申し送りノートに記入し情報の共有をしている。	/	/	◎	申し送りノートには、職員が丁寧に細かく記載しており、伝達もれのないよう、確認済の押印やサインをするようにしている。また、毎朝の申し送りには、夜勤の職員と日勤のリーダー職員が参加し、3ユニット合同で行っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	重要な要件は申し送りノートに記入し情報の共有、伝達ができるようにしている。	◎	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者様と日々会話やコミュニケーションを持つことで、御本人の希望を聴きできる限り行うようにしている。				利用者の重度化に伴い、本当の思いをくみ取ることは難しく、発語ができない利用者については表情から想像している。手さぐりの状態となることから、利用者の真の思いについては日々慎重に観察している。経験の浅い職員には、積極的に研修会への参加を促し、勉強の機会を与えている。職員の様子を見ていると、研修参加後は、利用者への気配りや声掛け等において、とてもレベルアップしていると管理者は感じている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	家事やレクリエーションに参加の有無や入浴前には衣服の選択をさせていただいている。			◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	日々の関わりの中で思いをくみ取ったり、会話の中で希望や思いを聴き支援している。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	食事の時間や入浴開始から終了時間は決まっているがその中で御利用者のペースに合わせ対応するようにしている。排泄は排泄パターン把握し声をかけている。就寝や起床は御本人の様子みて声を掛け対応している。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	コミュニケーションを多くとり御利用者と冗談を言って笑ったり一緒に家事仕事をしたりし明るい雰囲気作りに努めている。			◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や仕草、言葉などから思いをくみとり意向に添えるように努めている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	施設内での勉強会や研修に参加し報告書を作成。参加できないスタッフにも情報を共有したり、朝の申し送りやケース会等で言葉かけや態度について注意喚起を行っている。	◎	◎	◎	利用者のプライバシーについては常に配慮してはいるが、利用者が難聴の場合等、トイレ誘導の声掛けが大声になってしまい、職員同士で注意しあうようなこともある。歩行器を使用する利用者が安全に移動できるよう、トイレの扉を取り外した際には、代わりにカーテンを取り付ける等、安全性だけでなくプライバシーの保護についても常に配慮している。管理者は、「好きで入居した方はないのだから温かく接すること」を職員に指導している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	声掛けや誘導の際には声の大きさに注意し状況に応じ対応するように努めている。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	トイレの声かけ等は側で声を掛けたり歩行練習中さりげなく声を掛け誘導している。入所し間がない女性利用者様はしばらくの間トイレや入浴介助女性職員が対応している。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	部屋に入る際はノックし声を掛け入室するようにしている。			◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入職時に誓約書を読み理解した上で、個人情報やプライバシー保護について厳守している。他に毎年勉強会を開いて理解を深めている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	家事仕事をして頂いた際には感謝の言葉を伝えたり御利用者から労いの言葉を掛けて頂いたり、調理の際には味付けを教えてし頂いたりし良い関係性が築けるよう努めている。				利用者同士の相性にも配慮し、席順やテーブルの位置等にも工夫している。気の合う利用者同士と一緒に座れるようにしたり、他の利用者とは少し離れて座ったりしてもらう等、利用者毎に臨機応変な対応をして、皆が快適に過ごすことができるように支援している。食事の際、隣席の食が進まない利用者には、メニューについて説明をして食べてみるよう声掛けをしたり、いつもよりたくさん食べられたと励ましてみたり、利用者同士で支えあっている様子が見られた。また、以前には、職員の対応が悪かった時には利用者が管理者に知らせてくれたこともあった。利用者同士の会話から同世代ならではのやり取りなど、利用者から学ぶことも多い。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士で気づかい声を掛け合ったり、協力しあって家事仕事や壁紙作りなど一緒にすることで「皆がいるから楽しい」と言われる。御利用者もいる。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	入リビングの席は仲の良い方は隣り同士や同じ席になっている。又トラブル等あればスタッフが間に入り話をしている。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルになった際には、すぐに仲介にはいり両方の利用者様の話を聴き対応している。				

愛媛県グループホーム多賀の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時やケース会、面会時又御本人から話を聴き把握に努めている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	日々の会話の中から話を聴き、よく行っていたと話された食堂に外出に出かけたりしている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	知人や友人に会いに行くことはないが知人の方が施設に来られる事はある。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会に来られた際は笑顔で挨拶したり、自室へ誘導しお茶を出しゆっくり過ごせる時間を作っている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	△	散歩に行くときは、行っていない利用者様を優先し声掛けをしている。洗濯物を干しに行ったり、日光浴に外のベンチへ行けるよう支援している。	○	◎	◎	利用者2名ずつ、希望の場所へ外出する計画を立てており、利用者毎の好みや思い出に合わせた外出先を選定している。最近では、ずっと行けていなかった馴染みの食堂に行けることができ喜んでもらった。日常的な散歩については、利用者のペースで自由に出かけている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域の方が育てたレンゲ畑を見に行ったりしている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	野外の温度や天候、利用者様の状態を考慮しながら外出支援をしている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	毎月1回はなじみのある場所へ出かけられるようドライブの計画を立てている。又家族へも参加できるか尋ねている。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の勉強会に参加し理解を深めている。				法人内の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が定期的にレクリエーション指導や口腔リハビリ等に訪問しているため、利用者毎に個別の相談をすることができ、専門職の意見を反映させた支援をすることができている。皆で行う体操や個別のメニューなど、利用者毎に実施している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	ケース会等で1人1人の状態を把握し機能の維持や向上が図れるよう取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	○	できそうな事は、手を出さずき守りをしている。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入所時の生活歴やアセスメント日々の生活等を踏まえ把握するようにしている。				利用者の状況に合わせて、洗濯物干しや畳み、調理の下ごしらえ等手伝ってもらっている。夕食等の買い物に、利用者も一緒に出掛けることもある。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	できる事は一緒に言い感謝するようにしている。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域での役割はあまりない。				

愛媛県グループホーム多賀の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	選べる利用者様には服選びをして頂いている。季節に合った服が着れるようにしている。				できる限り、利用者が自分で洋服を選ぶことができるよう支援している。季節や気温に応じた洋服の選択が難しい利用者には、ちょうどよい衣類のみ引き出しに入れておく等工夫している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	御本人が以前から使用していたものを使って頂いたり家族様から持ってきて頂いている。利用者様と出かけ御自分の好みの衣服購入して頂いている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	利用者様の性格を把握し表情や仕草をみて支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時や行事の際にはそれにふさわしい服装を用意したり利用者様と決めている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく汚れを拭きとったり、更衣を促している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	家族様や御本人の希望があれば対応するが現在希望がない為、施設でお願いしている美容師さんに来ていただいている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	以前から着ていた好みの服を着て頂いている。髪型は家族の要望を聞きカットしている。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者様の食事形態を理解し食事が苦痛にならないように対応している。				野菜と肉、卵や調味料など、予め事業所単位で購入している。その上で、ユニット毎に、10日間分ずつ職員がメニューを考え、足りない食材の買い物もユニット毎にしている。買い物へは利用者も一緒に出掛けることもある。メニューを決める際には、利用者にも希望を聞きながら、季節や好みにも配慮して決めている。利用者に合わせて刻み食やミキサー食などの形態も変えて調理しており、食が進まない利用者には、個別に雑炊を作る、アイスクリームを用意する等の対応も行っている。茶碗や箸、湯呑については利用者個人の物を使用している。利用者は皆、穏やかな雰囲気の中、ゆったりと食事ができており、食事介助が必要な場合においても、利用者のペースに合わせゆっくりと無理強いせずに介助されている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	利用者様の要望を聴き献立を作成したり、家事仕事もできるところは参加して頂いている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者様ができる事は積極的にしてもらい日々の生活に意欲が出るように支援している。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	食事の形態などスタッフ同士共有できている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	アレルギーの有無や好き嫌いは入所時に家族様から聞いている。日々のコミュニケーションでも知り献立に取り入れている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	各利用者様に提供のやり方を変え楽しんで食事ができるようにしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	自宅で使用していた湯飲みやお茶碗を使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	声掛けや介助を行いながら一緒に食事をたべている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	リビングにいと料理のにおい、音を感じたり職員とコミュニケーションをとったり、家事仕事して頂き雰囲気作りを行っている。	○		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者様一人一人食事量、水分量をチェック表に記入ししっかり摂取できるよう支援を行っている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事摂取量の少ない方はエンシュアリキッドを提供したり、水分摂取量の少ない方は利用者様の好まれるジュースやゼリーを提供している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	献立は順番でスタッフで旬なものをや利用者様の好まれる物を考え作成している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板は使用後はハイター消毒し料理を行う前にはテーブルをHL消毒し調理している。食材等の衛生管理日々注意を行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	職員は口腔ケアの重要性を理解し毎食後口腔ケアの声掛けや見守り、介助を行っている。				法人内の言語聴覚士による指導を受けたり、医療機関が開催する口腔ケアの研修会に参加したりするなどして、職員が行う日々の口腔ケアに生かしている。現在は、口腔ケアに抵抗の強い利用者について日々試行錯誤しているところである。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	口腔ケアの介助時やアセスメントシートをもとに把握している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	定期的に言語聴覚士を招き指導して頂いている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	利用者様に声掛け洗面台に誘導、義歯のブラッシングを行っている。夕食後は毎回除菌剤で消毒を行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	利用者様の能力に合わせ、できるところはして頂きできない所は介助し清潔を保つ事ができるよう支援している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	歯茎の腫れ等異常がある時には、看護師に相談し歯科受診をしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	個々の排泄パターンや習慣を把握しトイレへの声掛け、誘導 を支援している。				トイレは職員が日々丁寧に清掃しており、大変衛生的である。利用者が使用しているものは、布パンツやパッド、紙パンツ等様々であるが、職員の声掛け誘導により、日中はほとんどの利用者がトイレを利用している。夜間頻尿の利用者については、夜間のみ居室にポータブルトイレを置いて使用しているが、日中はポータブルトイレを片付け、目立たないように工夫されている。便秘傾向の利用者には、水分や根菜類、ヨーグルト摂取、またはマッサージなどにより自然な排便を促しており、できるだけ薬を頼らないよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	身体的、精神的に及ぼす影響について職員間で共有している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	日々の関わりの中からや排泄表をみて、排泄パターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	個々の状況に合わせ紙パンツ、パット使用している。排泄パターン把握し失禁や御本人の不安がなくなればケース会等で話し合い布パンツ変更している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	日々の関わりの中で気づいた事をケース会やその場で話し合っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を、毎日付け間隔や排泄量を把握し声掛け誘導を行っている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	排泄チェック表や生活記録を参考にしケース会等で話し合い布パンツに変更できるよう検討している。家族様にも報告している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	日中夜間で使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	前屈運動や歩行練習を促したり水分補給を促している。 センナ茶を飲用して頂いたり、お腹を温め排便を促している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	お昼からの入浴になるが体調面に留意し個々にあった声掛け、タイミングで入浴できるよう支援している。	◎		◎	利用者は一人ずつ入浴しているため、順番が偏らないよう毎回くじ引きをしている。トラブルもなく毎回ゲーム感覚で楽しく順番を決めることができている。職員は男性職員も多く、利用者の希望に合わせて同性介助も対応している。一つのユニットにはリフトが設置されているため、全ユニットの利用者で必要な状況があれば共用している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	季節によりゆず湯にしたり、御本人のペースで入浴できるよう心掛けている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	手の届く所は御自分で洗って頂いている。浴槽に出入りする際は個々の力に合わせ支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	△	拒否の理由、声掛けのタイミングや声の掛け方を職員で話し合い気持ち良く入浴ができるように努力している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には、検温測定又利用者様によって血圧測定を行い入浴中、入浴後様子観察を行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の様子を生活記録に記入し日中の様子も合わせ夜間の睡眠パターンの把握に努めている。				いつも寝つきの悪い方や日によって波のある方など様々な利用者があり、眠くなるまで職員は根気よく付き添っている。夜間帯にずっと廊下を歩いたり、車いすで移動したりする利用者にも、無理強いすることなく、利用者のペースに合わせた支援をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	不眠の方には健康状態、排便の確認、日中の様子を確認し 活動量が少なければレクリエーションに参加促したり、便秘傾向の方には看護師相談し対応している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	入所前に服用していた場合でも、家族様、医師、看護師と相談し服用量を減らしている。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	しんどそうにされているや、訴えがある時はリビングのソファや和室、自室で横になり休まれている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	利用者様から希望があれば対応している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	電話や手紙を御自分からしたいと言われる方がいないが、お正月には年賀状を書くのを進めたりしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	ユニットの事務所内に電話置いているが使用する利用者様いない。訴えがあれば対応する。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙は御本人に渡し読んで頂いたり、職員が読んでいる。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	その都度家族様に報告し協力を得られるよう努力している。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	現在は個々にお金を所持している利用者様はいないが使う事の意味や大切を理解は共有している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	日常的にはないがドライブに出かけた際には好きな物選び食べて頂いたり、自分で衣服選び購入している。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	ドライブに行く際は行き先に事前に連絡しお願いをしている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	現在金銭管理してはいないが敬老のお祝い等で現金を頂いた際は家族様に相談し了解頂き、本人と話しほしい衣服など購入しいる。購入した物は写真に撮り説明している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時やその都度話し合い本人や家族様の意向を確認している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	○	個々に管理している方はいないが以前は出納長をつけ面会時に出納長と残金確認を職員、家族様、ご本人と一緒に確認を行っていた。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時の状況に合わせ対応している。	◎		◎	家族から、事情があり特定の身内の方に面会させたくない并希望されたことがあり、他機関とも連携し対応したこともある。それ以来、面会者カードを記入してもらうなど、気を付けるようにしている。また、事業所としては看取りはしていないものの、家族の強い希望で看取りに近い状態で支援している利用者がある。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	○	玄関先に休憩できるようベンチを置いたり、季節にあった飾り絵や花を飾り季節感を取り入れるよ うに努めている。	◎	◎	◎	管理者は、誰にでも気軽に入ってもらえるよう、入りやすい雰囲気を大切に 玄関周りの環境を整えている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	○	壁には利用者様が作成した貼り絵や塗り絵を飾ったり日々の様子の写真を掲示するなどし雰囲気 作りを行っている。	◎	○	◎	事業所内は経年しているが大変清潔で整頓されている。1日2回清掃し、 消毒にも気を使っている。廊下を移動する際に眺められるよう、季節の飾り や行事の際の写真などを掲示している。また、和室の床の間にはその時期 に合わせた置物やタペストリーを飾り、季節や行事を感じられるよう工夫さ れている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	○	音や光室温等利用者が快適に過ごせるよう適時配慮するように努めている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。	○	床の間には季節感のある生け花や置物を飾っている。散歩に行き積んできた花を飾る等し季節を 感じられるようしている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	○	ソファや和室で自由に休めるよう支援している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	○	カーテンをつける等しリビングから見えないようにしている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	○	入所時になじみのあるもの等の持ち込みを進めている。	◎		◎	事業所ではベッドのみ用意しており、自宅で使用していた愛用の椅子や、 配偶者の仏壇を居室内に置いている利用者もある。家族の写真やテレビな ど、自由に利用者の私物を持ち込むことで、居心地のよい空間を作ってい る。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	○	居室には名札を貼りトイレや浴室にも目印を貼っている。			◎	浴室やトイレには分かりやすいよう表示をしており、利用者が迷うことのな いよう工夫している。利用者にとって危険なものは手の届かない場所など へ収納するなど配慮している。。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	○	個々が不安となる要素の物は置かないようにしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	個々が好む物はいつでも共有できるように配慮している。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟） の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等）	○	理解しており日中は、いつでも外に出れるようにしている。	◎	◎	◎	家族の中には出勤前に面会に来られる方もあるため、玄関の施錠は21時 から6時の夜間帯のみとしている。各ユニットの出入口等、その他のドアに は一切施錠はしておらず、利用者も自由に出入りしている。落ち着かないと きなど、ふらりと外へ出る利用者もあるが、緊急連絡用に携帯電話を持った 職員がすぐに付き添っている。利用者のペースでしばらく散歩をして戻っ てくことも多い。その際、自宅へ招き入れてお茶をごちそうしてくれる地域 の方もある。職員も、鍵をかけない対応が普通だと認識しており、外へ出た利 用者に付き添う支援についても当然の流れと感じている。出入り口の扉に は鈴が付けられており、出入りする際には音で知らせることができるよ うになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図って いる。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	日中はいつでも出入りができることを説明している。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく てもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等）。	○	玄関には鍵をかけてはいない。職員の見守りにて外に出たい方は自由に外に出ている。天候など により理由を伝え我慢して頂く事をあります。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	フェースシートに細かく記入し目を通している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	1日は3回の検温と必用に応じて血圧も測り記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になる事があればすぐに受診し早急な対応をしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	他科受診の際はスタッフも同行している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族様の希望される医療機関への受診もその都度行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	その都度情報情報を共有している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	サマリーへの細かな記入を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	往診等の際に病後について医師との相談を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	往診時に個々の状況について細かく伝達を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	小さな気づきや変化に対し、すぐに看護師に報告し必用であれば主治医の指示のもと受診を行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師とはいつでも相談できるようにしている。協力医院にも当直の医師がおり、いつでも相談できる。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	少しでも気になることがあれば看護師に報告し、往診時等に医師に看てもらっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	処方箋を見れる所においているが副作用についてわからないこともあり、その都度看護師に説明してもらっている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服用の際は名前を読んで確認し、服用している。服用後はチェックを入れている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	いつもとは違う行動がみられないかを気にかけて対応をしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	服薬による副作用については細かく記録に残している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時やケース会、面会時等その都度話し合いの場設けている。				重度化については家族の希望も確認しながら、できる範囲で対応している。食事が難しい状況になると、退居して入院となることが多く、現状として事業所での看取りは実施していない。しかし、現在家族の強い希望で、事業所で終末期を迎えようとしている利用者がおり、日中も寝ていることが多いが、できるだけ共有スペースの和室に寝てもらい、皆の気配を感じられる環境で過ごせるよう配慮している。緊急時マニュアルのほか、利用者毎の個別の緊急時対応マニュアルが作成されているため、職員の不安軽減につながっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族、施設長、看護師、職員があつまりその都度話し合いを行っている。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の方職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者会にて話し合いをしている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時やその都度説明を行っている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	往診時やケース会にて話し合いを行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	ケース会、面会時等で話を聴きより良い対応ができるようにしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症に関しての勉強会を年1回開催している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	発生時の資料を作成し職員が共有できるようにしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	様々な機関から情報を入手し流行等チェックしている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染の流行に合わせ、面会や外出を控えるよう対策している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	作業後は必ず、手洗い消毒を行い入口にも消毒を置いている。感染症の流行時には職員来訪者にマスクの着用をお願いしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ケアプラン変更時や面会時家族様の要望を聞き取り入れたり家族様に協力して職員と一緒に病院受診等している。				家族会があり、お花見や避難訓練の時などに合わせて集まりを持ち、家族同士での会話もできている。事業所から家族へは、書面での報告「日常生活報告書」に加え、随時電話での報告を行っている。管理者は、小さな変化であっても、丁寧にこまめに報告することを心掛けている。家族へのアンケート結果からも満足度の高さが伺える。また、家族の要望も取り入れ、外出行事の際に家族とは目的地での現地集合とし、移動の際の家族の負担軽減を図る工夫をしている。ユニットの廊下には、常に職員全員の写真と氏名が掲示されており、職員の交代などがあった場合に、来訪者にも周知ができる体制になっている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	面会に来られた際は笑顔で挨拶したり、コミュニケーションをとり気軽に入れるよう努めている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	○	お花見会や夏祭りドライブに出かける時など参加できるか尋ねている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	日々の様子の写真や報告書を毎月1回送付している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	ケース会や家族会に参加して頂き意見交換を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	利用者様の生活歴を聴き家族様と良い関係が築けるよう努力している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	連絡事項はその都度定期的に報告している。	○		◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	△	ドライブや夏祭り、花見会、家族会に参加を呼びかけ交流ができるよう努めている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	一人一人に合った支援ができるよう家族様、職員と話し合い取り組んでいる。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時やケース会にて話している。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	施設長より行っている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入居時に退居に関すること説明している。利用者様、家族様の希望も聞いている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	○	電話や書類で説明を行い文書を郵送しサイン、印鑑をもらっている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会などを通じて地域の方の理解を得るようにしている。		◎		以前は地域の田植祭にも参加していたが、利用者の重度化もあり、最近はお祭りを見に行くような、見学する行事への参加のみとなっている。地域の方は事業所の運営に大変協力的で、レクリエーションへの協力や、利用者が散歩に出た際に声を掛けてくれたり、また自宅へ招き入れてお茶をごちそうしてくれたりすることもある。日頃より庭先に咲いた花を届けてくれたり、イベント時には駐車場として敷地を開放してくれたりする等、地域に助けられて事業所が運営できていると管理者は感じている。災害時の避難についても地域の方からアイデアが出されるなど、利用者を地域住民の一人としてとらえ、地域全体で助け合っていこうという雰囲気が感じられる。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	散歩時には挨拶し、夏祭りなどの行事には地域の方に多く参加してもらっている。		○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	地域の方も高齢になり支援者は増えることはない。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	あまりみられない				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	気軽に声をかけあったりというはある。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	夏祭りには多くのボランティアの支援がある				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域資源を把握し、出来るだけ活用しながら安全に暮らす事が出来ている				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	地域の朝市に出品したり、近所の美容室、神社など良く利用し関係を深めている				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	参加してくれている	◎		◎	毎回地域の方や家族等にも参加してもらい開催している。今回の外部評価事業に合わせ、前回の評価後の取り組み内容についても改めて報告を行った。希望する職員は参加できるようになっており、日々の支援についてや行事の報告などをしている。参加者よりいろいろとアイデアが出されることも多い。会議録は掲示して、当日参加していない職員にも内容を伝達し、家族へは定期的な書面での報告時に運営推進会議の内容についても入れるようにしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	報告している			◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見や提案を取り入れ、実施し報告も行っている		◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	なるべく多くの方に出席して頂くよう時間調整している		○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	公表している				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は玄関に掲げ、名札の裏にも印刷している。目に入ることで日々意識出来ていると思う				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	目に入りやすいところに掲げている	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	それぞれに合った研修を受けている。				管理者は最低でも年に2回は職員と個別面談を行っており、予め職員が作成している「目標達成シート」を基に仕事のやりがいや目標達成度合いについて話し合っている。代表者は職員間の親睦を図るため、法人内でのレクリエーション大会や納涼会、忘年会などが毎年開催されている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	入職した初期のころには、チェックリストを使用し、介護業務の理解度を計画的に把握し理解が深まるよう援助している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	色々な場面で職員の事など状況を把握できていて、向上心のある職員はきちんと認めてくれている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	会社内で他の事業所の方と交流する機会をつくり、勉強会などを行い、意識の向上に努めている				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	定期的に食事会などを行っている	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的に勉強会を開き、理解を深めている。				法人内での研修や、事業所に併設されている小規模多機能居宅介護事業所と合同での研修会もあり、虐待防止については職員も学びを深めている。職員は、入職後すぐに虐待防止研修を受けたことで、その大切さを痛感した様子である。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎日簡単なミーティングを行っている。月に1度のケース会でもケアの振り返りを行っている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	入浴時や更衣時には、体に異変はないか確認し、異変があれば職員同士報告しホーム長へも連絡する			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員や利用者の様子には、常に気を配っている				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束について研修への参加、施設での勉強会をおこない理解を深めている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ケアの振り返りは、ケース会の時に行っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族にも説明し拘束を行わない事に関して理解を求めている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	権利擁護に関する資料を誰でも見れるところに常設している。また研修でも学んでいる				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	必要に応じて家族等への相談支援をしている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	研修に参加し、制度をスタッフ同士で話し合い理解し活用できるようにしている。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルに応じて的確な対応ができるよう周知				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	年1回は消防署の方に来ていただき心臓マッサージやAED使用の訓練の行っている。施設内でも勉強会を開催している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット以外にも、少しの事で気づきノートに記入し情報を職員で共有し再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ケース会等で職員同士、家族様と話し合い事故防止に努めている。ヒヤリハットあれば安全対策委員会でも話し合い他の部署からも意見頂き対策に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルについて職員間で周知できるよう資料などを通して苦情について適宜検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情相談受付体制を整備し、適宜対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	対応策を検討して苦情防止に努め、少しでも良好な関係が保てるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	2か月に1回運営推進課を開催している。利用者様も参加している。面会時、家族会苦情等あれば聴き対応するように努めている。			○	利用者や家族とは、何かあればその都度伝えてもらえるよう、日頃より関係性づくりには配慮している。家族の外出行事への同行は負担も大きいため、家族の要望を取り入れ、その時の目的地で現地集合とし、少しでも多くの家族に気軽に参加してもらえるよう工夫している。職員も日頃の気付きやアイデアを「気づきノート」に記入したり、面接の機会を通して、思いを管理者や法人へ伝えることができています。また、職員アンケートが実施され、直接は言いにくい事柄があっても、匿名で記入できるなど配慮されている。管理者は、職員が思っていることを言えていないのではないかと常に気にかけており、日頃より様子を見て声かけをするなど配慮している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会、面会や家族会意見や要望、苦情等あるか聞いている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	公的な窓口について、ホーム長が適宜情報提供している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	ケース会への参加やユニット業務の手伝いや適時面接し意見交換できている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	定期的に個別に面接して、提案や相談してより良い運営に向けて検討している。			◎	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	管理者、全職員間で自己評価についてサービス評価の検討、理解に努めている。				自己評価についてはユニット毎に作成したため、ユニットによって自己評価も様々であるが、利用者本位のケアになっており、運営推進会議で取組み状況を家族等に報告し、出された意見等は運営に活かしている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	自己評価後、課題などに関して職員間で共有できる資料がある。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	計画書を作成し可能な限り取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議を通して参加メンバーと利用者家族への報告を行っている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議等で、目標達成について成果の発表、確認をしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	災害についてマニュアルをを作成している。対応できるよう毎月1回防災訓練を行っている。				大規模な訓練としては年に2回、併設の小規模多機能居宅介護事業所と合同で行い、その他に、毎月、事業所単位で訓練や研修をしている。防火管理者を中心に地震に備え、防災頭巾の被り方や通報の仕方、消火器の使い方などの確認などに取り組んでいる。運営推進会議で地域住民から出された意見の反映として、地域住民が避難誘導の応援に事業所へ来た際、利用者毎の対応方法が分かりやすいよう、各居室に名前と共に手引歩行可や車椅子対応のどちらかのイラストを貼るなど工夫している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	夜間を想定した訓練等実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備や避難経路の指示、非常食等の点検を行い把握している。			◎	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署の方を招き指導を受けたり、地域住民との合同訓練をする機会がある。	○	◎		
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	地域のネットワークづくりに適宜参加して災害対策に取り組んでいる。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	運営推進会議などで、地域の方や家族に向けて日々のケアについて情報提供に取り組んでいる。				運営推進会議で参加者より出されたアイデアをきっかけに、今後、認知症カフェを計画している。地域の方と雑談をしたり、ちょっとした相談事を受けたりするような、気軽に立ち寄れるような場所にしたいと考えている。地域の方が得意の麦わら細工を利用者に教えに来てくれたり、地元の小学生との交流や中学生の福祉体験の受け入れの実施、毎年開催している夏祭りには、高校生のボランティアも大勢参加するなど、地域との連携も取れている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	必要に応じて家族等への相談支援をしている。地域の方も相談に来られる時があるのでその都度助言している。		△	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	○	夏祭り等、開催して地域の方が集える機会を提供している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	ボランティアや実習生の受け入れを適宜実施している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	地域のイベントなどに参加したりボランティアや勉強会を通して地域に参加している。			◎	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年10月13日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3870600735
事業所名	グループホーム多賀の里
(ユニット名)	参丁目
記入者(管理者)	
氏 名	横田 福雄
自己評価作成日	29 年 9 月 2日

【事業所理念】 利用者様が穏やかで生き生きと社会生活を営めるよう質の高いサービスを提供します。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①先輩と新人職員の利用者に対する情報格差がある。 用者の施設への入居から現在の状況を新人職員であっても一人ひとりの経過を理解しやすいよう新人職員指導表を作成する。(指導表以外にも個々の支援の仕方を作成している為、利用者の状態を早く理解する事ができるようになった) ②運営推進会を単独ではどうか。 中開催し日々の利用者の様子をみて頂く 又家族や地域の方と一緒に防災訓練を行う。(利用者全員の避難誘導の大変さや重要性を理解して頂くと同時に災害時協力をお願いする)	・利 ・日	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 利用者、職員共に大変穏やかに過ごしており、ゆったりとした時間が流れている。男性職員の数が多く、事業所全体に活気がある。事業所内は一切施錠されておらず、ふらりと外へ出た利用者に、そっと寄り添う職員の姿勢が印象的である。日々の記録は面会時に家族が閲覧するシステムになっており、提供している支援内容についての自信が窺えるとともに、家族からの意見やアイデアに柔軟に対応していこうとしている姿勢が見受けられた。
--	--	----------	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	会話や普段の関わりの中から本人様の希望や思いを聞き出し、ケース会等で検討している。	◎		◎	事業所で使用している様式に利用者の希望や思いを細かく記載している。併設のデイサービスも含めると、将棋が好きな利用者は数名いるが、利用者同士で対戦するとトラブルになることもあるため、最近は職員と対戦している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	本人様の立場に立ち、ケース会等で職員同士意見交換し検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会時等に、話を聞いたりしているが、面会に来ない家族様もいるので難しい所もある。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	日々の記録に発した言葉などを記載している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	日々の業務に流されてしまうと、見落としてしまうことがある。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	本人様や家族様、関係者から生活歴を収集し理解に努めている			◎	利用者の若い頃のことや入居前の暮らしについて、聞き取ることができた事柄を丁寧に記載している。最近では、利用者が若いころに通っていたなじみの食堂に久しぶりに行き、とても喜ばれた。また、以前から利用している美容室へ、毎回家族と共に通っている利用者もいる。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	出来る事に対し、利用者様に役割を持ってもらうよう支援している。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	不安の訴えや不穏になった時の状況を申し送りや記録に残している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	人や音、時間など要因になるものを理解し本人様の前後の様子などから要因について探り把握に努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	24時間シート活用し、一人ひとりに合った生活が送れるようにご利用者様を把握に努めている。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	入所の際や介護計画書更新の際に本人様や家族様の希望を尋ねるようにしている			◎	カンファレンス記録は、細かく丁寧に記載されている。職員全員が作成したものを、最後にケアマネが確認して仕上げる形をとっている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日々の申し送りやカンファレンス等で話し合っている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプランを作成し、課題を明らかにしている。				

愛媛県グループホーム多賀の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	カンファレンスで話し合ったことは記録し理解を図っている。				利用者ごとに24時間シートを作成し、日々の支援、介護計画に反映させている。立てられた目標は、番号を振って介護記録に転記され、日々の支援の中で常に介護計画の内容を振り返ることができるように工夫している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人様や家族様の要望、体調の変化を把握した上でケース会で話し合い、介護計画書を作成している。	◎		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	日々の具体的な内容が分かるように話された言葉や行動など出来るだけ具体的に書くように努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	カンファレンスなどの記録に記載している。				
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケース会で話し合ったことは、記録し理解を図っている。			◎	職員は日々の支援の中で気が付いたアイデアや注意したほうが良いと感じたことなどを、「気づきノート」に記載している。そのノートを皆が回覧することで共有し、支援方法の改善や工夫につなげている。また利用者の様子や日々の支援については、「生活介護記録」に細かく記入され、この記録は家族の面会時に閲覧してもらうシステムになっている。職員にとっては、いろいろと記録するものが多く負担に感じる反面、きちんとした対応ができていくという安心感・自信につながっていることが伺えた。「気づきノート」にある利用者の情報について、「生活介護記録」にも簡単に記載があれば、閲覧している家族にも分かりやすく、より日頃の様子が伝えられる記録となると思われる。利用者の他者へ見せた優しさや、皆で楽しく過ごしている日常の様子が、より具体的に記入されていると、家族の安心感・満足感にもつながるため、今後の実施に期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	ケアプランに沿って実行できていない事もある。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の具体的な内容が分かるように話された言葉や行動などは出来るだけ具体的に書くよう努めている。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	気づきノートを作成し記録している。			◎	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間は3～4ヶ月で組んではいるが、特変があった場合は見直しを行っている。			◎	3か月に1回、また状態が変化した際にはその都度計画を見直している。家族へは面会時に説明しているが、状況によって郵送と電話で対応している。利用者毎の個別ファイルには、介護計画の期間も分かりやすく記載しており、次回の見直し時期を常に確認できるようにしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	面会時や状態変化等あれば報告を行っている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	期間は3～4ヶ月で組んではいるが、特変があった場合などは見直しを行い、新たに組むなど行っている。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月に一度ケース会を設けて問題を挙げて話し合っている。			◎	毎月1回ケース会を開催し、利用者個々の健康状態や支援について等話し合っている。職員が交代で記録をとり、ケース会に参加できなかった職員にも回覧し、情報共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	出来るだけ様々な意見がだされいろんな視点から利用者様が見えるよう話し合いに努めている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	出来る限り日程は調整している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録の回覧をしている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートに記入しており、確認したスタッフがサインをする仕組みを作っている。			◎	申し送りノートには、職員が丁寧に細かく記載しており、伝達もれのないよう、確認済の押印やサインをするようにしている。また、毎朝の申し送りには、夜勤の職員と日勤のリーダー職員が参加し、3ユニット合同で行っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートを確認しサインをして共有している。	◎			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	業務に追われる事が多く、なかなか実行できていないのが現状である。				利用者の重度化に伴い、本当の思いをくみ取ることは難しく、発語ができない利用者については表情から想像している。手さぐりの状態となることから、利用者の真の思いについては日々慎重に観察している。経験の浅い職員には、積極的に研修会への参加を促し、勉強の機会を与えている。職員の様子を見ていると、研修参加後は、利用者への気配りや声掛け等において、とてもレベルアップしていると管理者は感じている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	出来るだけ選択して頂けるよう声掛けを行っている。			◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	帰宅願望等の希望には添えないが、散歩やドライブなどで外出支援する。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	人間的に無理な場合もある。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	興味のあることを提供し、スタッフも共感することで喜ばれている。			◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通の難しい方もいる為表情や行動で汲み取れるように努めている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	自尊心を傷つけない声掛けや接し方に努めている。	◎	◎	◎	利用者のプライバシーについては常に配慮してはいるが、利用者が難聴の場合等、トイレ誘導の声掛けが大声になってしまい、職員同士で注意しあうようなこともある。歩行器を使用する利用者が安全に移動できるよう、トイレの扉を取り外した際には、代わりにカーテンを取り付ける等、安全性だけでなくプライバシーの保護についても常に配慮している。管理者は、「好きで入居した方はないのだから温かく接すること」を職員に指導している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	配慮し自尊心を傷つけないよう声掛けを行っている。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	トイレ、入浴には配慮しながら行っている。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	居室はプライバシーの場所である事は把握しているが、ノック等忘れてしまう事がある。			◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライバシー保護の勉強を毎年定期的に行っている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	家事等手伝ってもらった場合には必ず「ありがとう」の言葉かけを行うようにしている。				利用者同士の相性にも配慮し、席順やテーブルの位置等にも工夫している。気の合う利用者同士と一緒に座れるようにしたり、他の利用者とは少し離れて座ったりしてもらう等、利用者毎に臨機応変な対応をして、皆が快適に過ごすことができるように支援している。食事の際、隣席の食が進まない利用者には、メニューについて説明をして食べてみるよう声掛けをしたり、いつもよりたくさん食べられたと励ましてみたり、利用者同士で支えあっている様子が見られた。また、以前には、職員の対応が悪かった時には利用者が管理者に知らせてくれたこともあった。利用者同士の会話から同世代ならではのやり取りなど、利用者から学ぶことも多い。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士が気につけ、関係性を築けるよう席の配置などを配慮している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者様のしぐさを気にする人とは、席を離すなどして臨機応変に対応している。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	お互いの話を傾聴し、不安が残らないよう対応している。				

愛媛県グループホーム多賀の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	馴染みの関係をできるだけ、たやさないように支援しているが、把握できていない人もいる。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	馴染みの場所や地域との関係など把握できていない利用者様もいる。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	家族様の協力を得ながら関係が途切れないよう努めている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	来られて際はリビングや自室に室内にお茶などでゆっくりお話しできるよう工夫している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	○	事前に外出できるときには、利用者様によっては自己決定できる方などは希望等を聞き行きたい所に外出している。又、自己決定できにくいかなどは家族様が面会に来られた時などに要望をきき、なるべく本人様に沿った外出計画をしている。	○	◎	◎	利用者2名ずつ、希望の場所へ外出する計画を立てており、利用者毎の好みや思い出に合わせた外出先を選定している。最近では、ずっと行けていなかった馴染みの食堂に行けることができ喜んでもらった。日常的な散歩については、利用者のペースで自由に出かけている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出する際行ける家族様等は、参加を促しているが、地域の人やボランティアの方には声かけていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調の良い日に、散歩や外気浴したり、家族様にも協力してもらい外出にも取り組めた。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	本人様や家族様に事前に話して普段いけないう所へ外出しています。	/	/	/	
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	毎年認知症勉強会も行っており職員も理解をしている。日々の生活の中で、利用者様の状態が変わった言動、行動があった場合は生活記録や申し送りノートを活用して職員同士で共有してケアを行っている。	/	/	/	法人内の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が定期的にレクリエーション指導や口腔リハビリ等に訪問しているため、利用者毎に個別の相談をすることができ、専門職の意見を反映させた支援をすることができている。皆で行う体操や個別のメニューなど、利用者毎に実施している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	機能訓練士に職員が利用者様にあった、リハビリ方法を指導してもらいその人にあった支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	○	利用者様ができそうな家事等、職員がついて見守り声掛けしながら行っている。本人様がしてみたい事など話しやってみたいことを聞き出して支援している。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	把握はできているが、なかなかやる気がでないかたには、時間を空けて声掛けたりして様子をみている。	/	/	/	利用者の状況に合わせて、洗濯物干しや畳み、調理の下ごしらえ等手伝ってもらっている。夕食等の買い物に、利用者も一緒に出掛けることもある。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	その人にあったものを考慮して、色々な年間行事に参加してもらい良い刺激になり取り組みをしている。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	支援できていない。	/	/	/	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	整容、服装についてきをつけている。着やすいもの、色合わせなどしている。				できる限り、利用者が自分で洋服を選ぶことができるよう支援している。季節や気温に応じた洋服の選択が難しい利用者には、ちょうどよい衣類のみ引き出しに入れておく等工夫している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	日々利用者様と話しをして本人の好むよう支援している。又、自己決定しにくいかたには家族様に相談したりしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族様が面会に来られた時など相談したりして本人様が少しでも好まれるよう支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	その方が持っているもので、なるべく季節間のある服装を心がけて支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、ブライドを大切にしたりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	常に、気が付いた時にきをつけている。又、中にはきずいていない職員がいたらその都度声掛け行いその人にあった整容を心がけている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	理容師にきてもらっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度の利用者様でも話を理解できるかたなど希望をきいて支援している。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事をすることの大切さはきちんと理解してる。				野菜と肉、卵や調味料など、予め事業所単位で購入している。その上で、ユニット毎に、10日間分ずつ職員がメニューを考え、足りない食材の買い物もユニット毎にしている。買い物へは利用者も一緒に出掛けることもある。メニューを決める際には、利用者にも希望を聞きながら、季節や好みにも配慮して決めている。利用者に合わせて刻み食やミキサー食などの形態も変えて調理しており、食が進まない利用者には、個別に雑炊を作る、アイスクリームを用意する等の対応も行っている。茶碗や箸、湯呑については利用者個人の物を使用している。利用者は皆、穏やかな雰囲気の中、ゆったりと食事ができており、食事介助が必要な場合においても、利用者のペースに合わせゆっくりと無理強いせずに介助されている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	一緒に出来る利用者様とはしているが、以前に比べてできていない利用者様の方多い。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	限られた利用者様しかできていない。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	日々の会話の中で、好きなものなど知ろうと努力している。又、職員同士でも情報を共有している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節感を感じる食材は出来る限り使って作れている。自己決定できる利用者様には、好みを聞き出し献立に入れている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	その人にあった食事形態で提供できている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	利用者様の使い慣れた本人様の持ち物を使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	一緒に食事することで、食事の楽しみなど感じてもらう様努めている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	食事をする際は、声掛けをしながら工夫して食べてもらっている。	○		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	個々の量など工夫している。又水分量等考慮し、お勧めしてる。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	声かけをし摂取量などきちんと確保できるよう努めている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員同士で、意見を出し合い工夫している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	きちんと努めている。又、キッチンのに食中毒マニュアルを貼っており職員も意識して管理している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	△	新人職員など理解不足な部分もあり、わからない所は先輩職員が指導して理解努めている。				法人内の言語聴覚士による指導を受けたり、医療機関が開催する口腔ケアの研修会に参加したりするなどして、職員が行う日々の口腔ケアに生かしている。現在は、口腔ケアに抵抗の強い利用者について日々試行錯誤しているところである。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	△	利用者様によっては指示が通らず口の中の確認出来ていない事もある。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	歯科医療等から指導してもらうなどはしていない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	△	新人職員など理解不足な部分もあり、わからない所は先輩職員が指導して理解努めている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	△	新人職員など理解不足な部分もあり、わからない所は先輩職員が指導して理解努めている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	かかりつけ医に通い治療している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄についての研修に参加し、資料やスタッフ同士で共有して理解している。				トイレは職員が日々丁寧に清掃しており、大変衛生的である。利用者が使用しているものは、布パンツやパッド、紙パンツ等様々であるが、職員の声掛け誘導により、日中はほとんどの利用者がトイレを利用している。夜間頻尿の利用者については、夜間のみ居室にポータブルトイレを置いて使用しているが、日中はポータブルトイレを片付け、目立たないように工夫されている。便秘傾向の利用者には、水分や根菜類、ヨーグルト摂取、またはマッサージなどにより自然な排便を促しており、できるだけ薬を頼らないよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	研修資料や看護師より指導あり理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	一日の流れを記録して、排尿回数、排便パターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	本人様状態にあった、対応、支援を行っている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食べ物や、水分、運動等で少しでも改善できるようスタッフ同士で話しあい取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	スタッフ全員で本人の排泄パターンを申し送りすること、早め早めのトイレ誘導を行っている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	家族様とも、相談しながら、本人様にあったもので支援している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	利用者様一人一人に合ったもので使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	ケアプランにも利用者一人一人に合った運動、食事、水分を取り入れて行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	利用者様からの入浴の希望はあまりでないために、入浴時間は遅出勤務者が、入浴介助をしている為こちらの時間に合わせている。	◎		◎	利用者は一人ずつ入浴しているため、順番が偏らないよう毎回くじ引きをしている。トラブルもなく毎回ゲーム感覚で楽しく順番を決めることができている。職員は男性職員も多く、利用者の希望に合わせて同性介助も対応している。一つのユニットにはリフトが設置されているため、全ユニットの利用者で必要な状況があれば共用している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	本人様のペースで入浴していただいている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来ることはして頂くように、支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	一人一人に合った声掛けをすることで、気持ちよく入浴していただけている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタル測定し、健康状態を確認し入浴後もきをつけている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録や申し送りをする事でスタッフ全員把握している。				いつも寝つきの悪い方や日によって波のある方など様々な利用者があり、眠くなるまで職員は根気よく付き添っている。夜間帯にずっと廊下を歩いたり、車いすで移動したりする利用者にも、無理強いすることなく、利用者のペースに合わせた支援をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中は運動等多く取り入れて、活動的に過ごして、夜間ゆっくり休めるように努めている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	薬には出来るだけ頼らずに、日中活動的に過ごしていただくことによって夜間の睡眠に繋げている。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	健康状態が悪かったり、疲れている時など部屋で休んでもらい状態把握している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話で家族様から要望がある時など変わってもらっている。以前は利用者によっては携帯電話を持っているかたもおられた。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	本人希望する場合などスタッフが、できる所は手助けできている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	以前携帯電話所持していた時など気軽に電話されていた。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人様ができない時には、家族様にお願いしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族様に理解、協力をしてもらっている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	現在、利用者様の中でお金を所持している人はいない為、理解できていないスタッフもいると思う。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	利用者様の中で、お金を所持している人はいないため行っていない。月一回外食には施設費用で出かけている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	お金を所持している人はいないためできていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	以前はお金を所持されていた方もおられたが、現在では利用者様のADL低下もあり家族相談していない。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	本人様、家族様にもご理解してもらっている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	○	お金を管理する場合は、家計簿につけて管理するようにしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人様、家族様の要望にできる限り応えることが、出来るよう取り組んでいる。	◎		◎	家族から、事情があり特定の身内の方に面会させたくない并希望されたことがあり、他機関とも連携し対応したこともある。それ以来、面会者カードを記入してもらうなど、気を付けるようにしている。また、事業所としては看取りはしていないものの、家族の強い希望で看取りに近い状態で支援している利用者がある。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	○	近隣住民、来客者が気軽に来ていただいている。	◎	◎	◎	管理者は、誰にでも気軽に入ってもらえるよう、入りやすい雰囲気を大切に 玄関周りの環境を整えている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	○	利用者様の居室には、親しみのある写真やぬいぐるみ、クッションなど、使い慣れた物使用してい る。利用者様が落ち着いて過ごせるようにしています。	◎	○	◎	事業所内は経年しているが大変清潔で整頓されている。1日2回清掃し、 消毒にも気を使っている。廊下を移動する際に眺められるよう、季節の飾り や行事の際の写真などを掲示している。また、和室の床の間にはその時期 に合わせた置物やタペストリーを飾り、季節や行事を感じられるよう工夫さ れている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	○	利用者が不愉快な思いをしないように、音や光にきをつけている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。	○	季節感を感じるように、壁面や花などを飾って利用者様が居心地の良い空間をしている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	○	お話しが好きな方は、同じテーブルに座り、話をされたり、ソファでくつろぐ方もいます。玄関先 で休まれる方の為にベンチを設置しています。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	○	それぞれ扉があり、さらにカーテンも閉めて直接見えないようにしている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	○	使っていたタンスや仏壇、家族との写真などを飾っている。危険な物は、持って帰って頂くこともあ る。	◎		◎	事業所ではベッドのみ用意しており、自宅で使用していた愛用の椅子や、 配偶者の仏壇を居室内に置いている利用者もある。家族の写真やテレビな ど、自由に利用者の私物を持ち込むことで、居心地のよい空間を作ってい る。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレ、入浴、居室の入り口には、わかりやすく表記している。居室のタンスの引き出しにも表記し ている。			◎	浴室やトイレには分かりやすいよう表示をしており、利用者が迷うことのな いよう工夫している。利用者にとって危険なものは手の届かない場所など へ収納するなど配慮している。。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	○	廊下や居室などは不要なものの障害になるものは外している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	誤飲の危険があり、すぐに取れる所には置いていない。必要時にはスタッフが出している。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟） の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等）	○	理解し、鍵はかけていない。	◎	◎	◎	家族の中には出勤前に面会に来られる方もあるため、玄関の施錠は21時 から6時の夜間帯のみとしている。各ユニットの出入口等、その他のドアに は一切施錠はしておらず、利用者も自由に出入りしている。落ち着かないと きなど、ふらりと外へ出る利用者もあるが、緊急連絡用に携帯電話を持った 職員がすぐに付き添っている。利用者のペースでしばらく散歩をして戻っ てくことも多い。その際、自宅へ招き入れてお茶をごちそうしてくれる地域 の方もある。職員も、鍵をかけない対応が普通だと認識しており、外へ出た利 用者に付き添う支援についても当然の流れと感じている。出入り口の扉に は鈴が付けられており、出入りする際には音で知らせることができるよ うになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っ ている。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時に家族様に説明、理解をもらっている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく てもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等）。	○	スタッフが協力し、利用者様一人一人の居場所の把握をしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	介護記録、申し送り、診療情報提供書などにて把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	介護記録に記載している。常に把握できるようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	常に看護師がいて、週に一回往診に医師に来てもらい、相談できる関係が出来ている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	本人様、家族様が希望するかかりつけ医に受診している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	病院と連絡を取り合い家族様の希望を取り入れている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	話し合いの場を設けて、家族様の意見を聞き、主治医の助言を踏まえて話し合いをしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	介護サマリーや申し送りで、情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院と連絡を取り合い、情報交換や相談をしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	看護師が日頃から連絡を取り合っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	いつもと違う変化があれば看護師に相談報告し指示を受けている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間看護師に連絡がつくようにしている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	看護師が常勤し、健康管理している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬のファイルを見て理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	各勤務のリーダーが服薬させ、飲み忘れがないようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	状態に合わせて医師と相談し薬の調整をしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	看護師へ経過を伝え、病院と連絡を取っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態の変化の段階ごとに、話し合いの場を設けている。				重度化については家族の希望も確認しながら、できる範囲で対応している。食事が難しい状況になると、退居して入院となることが多く、現状として事業所での看取りは実施していない。しかし、現在家族の強い希望で、事業所で終末期を迎えようとしている利用者がおり、日中も寝ていることが多いが、できるだけ共有スペースの和室に寝てもらい、皆の気配を感じられる環境で過ごせるよう配慮している。緊急時マニュアルのほか、利用者毎の個別の緊急時対応マニュアルが作成されているため、職員の不安軽減につながっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族様や病院と連絡を取り合い、共有している。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	支援できるよう指導している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	話し合いの場で、説明し理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	施設で出来ること以外は、病院で医療行為を受けている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	家族様の気持ちを受け止め、支援している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会を開き、知識を得ている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアル化し、ファイルにしている。皆が同じ対応が出来るようしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	インターネット等を通じて取り入れている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	申し送り時に皆に伝え対応している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	ユニット入口や玄関にHLを設置している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族様と連絡を取り一緒に支援できるようにしている。				家族会があり、お花見や避難訓練の時などに合わせて集まりを持ち、家族同士での会話もできている。事業所から家族へは、書面での報告「日常生活報告書」に加え、随時電話での報告を行っている。管理者は、小さな変化であっても、丁寧にこまめに報告することを心掛けている。家族へのアンケート結果からも満足度の高さが伺える。また、家族の要望も取り入れ、外出行事の際に家族とは目的地での現地集合とし、移動の際の家族の負担軽減を図る工夫をしている。ユニットの廊下には、常に職員全員の写真と氏名が掲示されており、職員の交代などがあった場合に、来訪者にも周知ができる体制になっている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	家族様とコミュニケーションを取り、気軽に訪れる、雰囲気づくりに努める。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	○	お茶会や夏祭りに参加してもらったり家族様も含めたドライブに行ったりしている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	日常生活報告者やユニットだよりを毎月送っている。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	家族様の要望を聞き、定期的に連絡報告している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	情報収集し、理解に努めている。勉強会で知識を増やしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	行事や運営上の変更点等は、手紙や口頭で家族にも説明し、同意や協力をお願いしている。	○		◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	○	花見会の後に家族会に参加され意見などを聞き交流を持てている。行事にも参加してもらい、家族様同士の交流が図れるようにしている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	病気や事故について、考えられるリスクを説明し、必要に応じて家族様とも話しあいを行っている。				
38	契約に関する説明と納得	j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時に近況報告などし、その時に家族様の意見交換をしている。又、遠方の家族様などは電話にて様子報告している。			◎	
		a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入所時に説明している。必要な場合には具体的な例も示しながら納得できるように説明している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去時には、移転先の相談員と面談を行う等支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	○	契約時や料金改定時には、文書と口頭にて内容の説明同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の方には、運営推進会議の場にて行事のお誘いや理解を図っている。		◎		以前は地域の田植祭にも参加していたが、利用者の重度化もあり、最近はお祭りを見に行くような、見学する行事への参加のみとなっている。地域の方は事業所の運営に大変協力的で、レクリエーションへの協力や、利用者が散歩に出た際に声を掛けてくれたり、また自宅へ招き入れてお茶をごちそうしてくれたりすることもある。日頃より庭先に咲いた花を届けてくれたり、イベント時には駐車場として敷地を開放してくれたりする等、地域に助けられて事業所が運営できていると管理者は感じている。災害時の避難についても地域の方からアイデアが出されるなど、利用者を地域住民の一人としてとらえ、地域全体で助け合っていこうという雰囲気が感じられる。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	散歩に行くときなど地域の方に日常的な、挨拶を交わしたりしている。		○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	避難訓練や行事の時など、本当に地域の方にお世話になっている。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	以前の利用者の家族様が来られ一階の囲炉裏で、話をしたりしている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	隣近所の方とは、日常的に挨拶を交わしている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	夏祭り、麦わら細工、コーラス、炊き出し訓練など行事の際に、支援を受けている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近くの神社やお寺に散歩で利用させてもらって利用者様の生活のハリや楽しみに繋がっている。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	神社の掃除をスタッフがボランティアで年一回行っている。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回地域の方参加下さっている。利用者様、家族様はタイミングが合えば参加している。	◎		◎	毎回地域の方や家族等にも参加してもらい開催している。今回の外部評価事業に合わせ、前回の評価後の取り組み内容についても改めて報告を行った。希望する職員は参加できるようになっており、日々の支援についてや行事の報告などをしている。参加者よりいろいろとアイデアが出されることも多い。会議録は掲示して、当日参加していない職員にも内容を伝達し、家族へは定期的な書面での報告時に運営推進会議の内容についても入れるようにしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	便りを作成し、参加者へ取り組みや出来事を説明している。			◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	地域の方には、相談員、利用者様、家族様、行政の助言を真摯に受け止め施設で良いことは取り入れている。		◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	運営推進会議の日程、時間帯は参加メンバーの都合もあり今後も日程、時間帯は継続して行っていく。		○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	グループホーム玄関にファイルを置いており誰でも見えるようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	グループホーム全体の理念と各ユニットでも理念がありそれに向かって職員一人一人が意識して取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	日頃より関わりを持つことで理念について伝えられている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員一人一人の能力、資格を把握し計画的に研修が受けれるように取り組んでいる。				管理者は最低でも年に2回は職員と個別面談を行っており、予め職員が作成している「目標達成シート」を基に仕事のやりがいや目標達成度合いについて話し合っている。代表者は職員間の親睦を図るため、法人内でのレクリエーション大会や納涼会、忘年会などが毎年開催されている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	実務経験を通して働きながらスキルアップ出来るように取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	入職時に給料水準や労働時間など話している。職員個々の努力や実績、勤務状況を把握している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	相互研修に参加することで感心したことや学んだことを他のスタッフに報告し話し合い、サービス向上に努めている。また施設の良い所を参考にし取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	懇親会やスポーツ交流を行うことでストレスを軽減している。	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会や外部の研修参加してスタッフ皆で情報を共有している。				法人内での研修や、事業所に併設されている小規模多機能居宅介護事業所と合同での研修会もあり、虐待防止については職員も学びを深めている。職員は、入職後すぐに虐待防止研修を受けたことで、その大切さを痛感した様子である。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝、夕に申し送りをしている。利用者様の健康やケアについて話しあっている。スタッフ同士で申し送りして把握しケアに反映している。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	勉強会や外部の研修参加して理解したうえで、スタッフ同士で話し合っている。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	スタッフの状況を、把握し面談を行っている。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会や外部研修にて学んでいる。施設では、身体拘束の同意書などマニュアルを作成している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会や外部研修にて学んでいる。利用者様の尊厳、安全を考えた拘束しないケアを、スタッフ同士で話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入所時の際に十分に家族に説明して納得されている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	勉強会や外部研修にて学んでいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	必要に応じて説明している。不明な点、疑問があればいつでも対応している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関（社会福祉協議会、後見センター、司法書士等）との連携体制を築いている。	○	支援の必要な利用者様が制度を利用できるように専門機関との連携体制を築いている。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成して、ファイルにしている。緊急時に備えて、皆が同じ対応が出来るようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	消防署から救急隊員に、きてもらい訓練も定期的に行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書、ヒヤリハットについて記録し検討して再発防止に取り組んでいる。又、安全対策委員会で話し合ってる。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者様一人ひとりについて介護ルールを定め事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルがあり、苦情報告書などの書類作成してしている。苦情対応時には話し合っている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があった場合は、すぐに話し合いをして改善している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	納得を得ながら前向きに話し合っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等）	○	入所時や面会の際に家族様に対し苦情相談窓口を説明している。			○	利用者や家族とは、何かあればその都度伝えてもらえるよう、日頃より関係性づくりには配慮している。家族の外出行事への同行は負担も大きいため、家族の要望を取り入れ、その時の目的地で現地集合とし、少しでも多くの家族に気軽に参加してもらえるよう工夫している。職員も日頃の気付きやアイデアを「気づきノート」に記入したり、面接の機会を通して、思いを管理者や法人へ伝えることができている。また、職員アンケートが実施され、直接は言いにくい事柄があっても、匿名で記入できるなど配慮されている。管理者は、職員が思っていることを言えていないのではないかと常に気にかけており、日頃より様子を見て声かけをするなど配慮している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等）	○	個別に聞いたり、運営推進会議などで話し合っている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	面会時など、適宜行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	意見要望などに耳を傾けている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	申し送りやケース会などで、話し合い助言や話を傾聴し検討している。			◎	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年2回取り組んでいる。				自己評価についてはユニット毎に作成したため、ユニットによって自己評価も様々であるが、利用者本位のケアになっており、運営推進会議で取組み状況を家族等に報告し、出された意見等は運営に活かしている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価について一つひとつ出来る事を職員皆で協力し実施している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	実現可能な目標に向かって行っている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族、運営推進会議メンバーに報告し、話し合っている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議にて報告している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	防火管理者により、各マニュアルを作成している。				大規模な訓練としては年に2回、併設の小規模多機能居宅介護事業所と合同で行い、その他に、毎月、事業所単位で訓練や研修をしている。防火管理者を中心に地震に備え、防災頭巾の被り方や通報の仕方、消火器の使い方などの確認などに取り組んでいる。運営推進会議で地域住民から出された意見の反映として、地域住民が避難誘導の応援に事業所へ来た際、利用者毎の対応方法が分かりやすいよう、各居室に名前と共に手引歩行可や車椅子対応のどちらかのイラストを貼るなど工夫している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	一ヶ月に一回訓練を実施し行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検している。			◎	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署、地域との連携を図っている。	○	◎		
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の方や家族様に施設での炊き出し訓練に参加され周知してもらっている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域の方へ作業療法士より、運営推進会議でリハビリについて勉強会を行った。				運営推進会議で参加者より出されたアイデアをきっかけに、今後、認知症カフェを計画している。地域の方と雑談をしたり、ちょっとした相談事を受けたりするような、気軽に立ち寄れるような場所にしたいと考えている。地域の方が得意の麦わら細工を利用者に教えに来てくれたり、地元の小学生との交流や中学生の福祉体験の受け入れの実施、毎年開催している夏祭りには、高校生のボランティアも大勢参加するなど、地域との連携も取れている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談は受け、出来る範囲でしている。		△	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	夏まつり等の行事の時は開放している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実習など受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	十分な協働は出来ていない。			◎	